

受動態

- (1) 正解③:英語とフランス語はカナダで話されています。

[解説]主語は English and French ですが、「英語やフランス語が話す」のではなく、「話される」という関係なので受動態が必要です。受動態は be 動詞+過去分詞 の形をとります。主語が複数なので be 動詞は are になり、speak の過去分詞 spoken を用いて are spoken が正しい形です。① speak は能動態で「英語とフランス語が話す」という意味になってしまいます。② spoke は過去形です。④ are spoke は過去分詞ではなく過去形を用いているため誤りです。現在の一般的事実を述べている文なので現在受動態 are spoken が正解です。

- (2) 正解①:この単語は第1音節にアクセントを置いて発音されます。

[解説]主語は This word です。単語そのものが発音するわけではなく、人によって発音される対象なので受動態が必要です。受動態は is pronounced の形になります。pronounce は「発音する」という他動詞で、過去分詞は pronounced です。② is pronouncing は現在進行形の能動態で、「この単語が発音している」という意味になり不自然です。③ pronounced は be 動詞がありません。④ pronounced も同様です。この文は辞書や発音説明でよく見られる表現で、「～と発音される」は is pronounced を用います。したがって is pronounced が正解です。

- (3) 正解②:夏の間、その花はどのくらいの頻度で水をやられますか。

[解説]How often は「どのくらいの頻度で」を表し、習慣的な動作を尋ねています。主語 the flowers は「水をやる側」ではなく「水をやられる側」なので受動態が必要です。空所の前に are があるため、受動態の形 are watered を完成させる watered が入ります。① water は原形です。③ been watered は完了形の一部であり、are been watered という形にはなりません。④ watering は現在分詞です。garden や flowers が主語になっている場合は、「水をやられる」という受動態が頻出です。したがって watered が正解です。

- (4) 正解②:彼は少年たちによってチームのキャプテンに選ばれました。

[解説]主語 He は「選ぶ側」ではなく「選ばれる側」です。そのため choose を受動態にした形が必要です。choose の過去分詞は chosen であり、受動態は was chosen となります。文中の by the boys も受動態を示す重要な手掛かりです。① has chosen は現在完了の能動態で、「彼が選んだ」という意味になります。③ chose は過去形の能動態です。④ chooses は現在形です。さらに captain of the team は補語であり、SVOC 文型の受動態になっています。「彼はキャプテンに選ばれた」という意味になる was chosen が正解です。

- (5) 正解③:DDTのような化学薬品が昆虫を駆除するために使われるなら、環境に深刻な問題が生じるかもしれません。

[解説]主語は chemicals like DDT ですが、化学薬品は「使う側」ではなく「使われる側」です。そのため受動態が必要になります。if 節では一般的条件を述べているので現在形を用います。受動態の現在形は are used です。① use は能動態で「化学薬品が使う」という意味になり不自然です。② uses は三単現で主語とも一致しません。④ used は過去形・過去分詞だけで、be 動詞がありません。受動態の基本形「be+過去分詞」を正確に見抜くことが重要です。したがって are used が正解です。

- (6) 正解③:この郵便局では毎朝手紙が集められます。

[解説]主語は Letters です。手紙は「集める側」ではなく「集められる側」なので受動態が必要です。また every morning があるので、現在の習慣・反復を表しています。そのため現在受動態 are collected を用います。collect は「集める」という他動詞で、過去分詞は collected です。① are collect は過去分詞になっていません。② are collecting は現在進行形で、「今まさに集めている最中」という意味になります。④ collects は能動態であり、主語とも一致していません。受動態の基本形「be + 過去分詞」を確認する典型問題です。したがって are collected が正解です。

- (7) 正解②:英語は世界中の多くの国で話されています。

[解説]主語 English は言語であり、自ら話すことはできません。人々によって話される対象なので受動態が必要です。空所の前に is があるため、受動態の形 is spoken を完成させる spoken が入ります。① speaking は現在分詞で、「話している」という意味になります。③ spoke は過去形です。④ speaks は能動態で、「英語が話す」という意味になってしまいます。around the world があるため、現在の一般的事実を述べている文です。言語を主語にした受動態は非常によく出題されるので、「English is spoken ~」という形はそのまま覚えておくようにしましょう。したがって spoken が正解です。

1-2 過去の受動態: was / were + 過去分詞

- (8) 正解①:この寺は美しいですね。何年前に建てられたのですか。—1343年に建てられました。

[解説]文中に in 1343 という過去の時点を表す語句があります。そのため過去時制が必要です。また temple は「建てる側」ではなく「建てられる側」なので受動態になります。build の過去分詞は built ですから、過去受動態 was built が正しい形です。② built は過去分詞だけで主語と結びつく動詞がありません。③ was building は過去進行形で、「建設中だった」という意味になります。④ build は原形です。建物・橋・寺院などを主語にした問題では build の受動態が頻出です。したがって was built が正解です。

- (9) 正解④:私の町で最も高い建物は50年前に建てられました。

[解説]50 years ago があるため、過去の出来事を表しています。また building は建てる側ではなく建てられる側なので受動態が必要です。したがって過去受動態 was built が正解です。① has built は現在完了の能動態です。② has been built は現在完了受動態で、「今までに建てられた」という意味になりますが、50 years ago のような過去の一点とは通常用いません。③ built は動詞が不足しています。過去の時点が明示されている場合は、まず過去形を疑うことが重要です。したがって was built が正解です。

- (10) 正解③:印刷術が発明されるずっと前から、人々は紙を利用していました。

[解説]printing は「印刷術」です。印刷術は「発明する側」ではなく「発明される側」なので受動態が必要です。invent の過去分詞は invented であり、過去受動態 was invented となります。① invents は現在形です。② invented は過去形または過去分詞だけで、受動態を作る be 動詞がありません。④ was inventing は過去進行形で、「発明している最中だった」

という意味になります。long before があるため、過去の出来事同士を比較する文になっています。「発明される」は

- (11) 正解④:1995年の阪神大震災で多くの人々が亡くなりました。

[解説]主語は Many people です。阪神大震災で人々は「殺した側」ではなく「殺された側」なので受動態が必要になります。また 1995 という過去の時点が示されているため、過去受動態 were killed を用います。① had died は過去完了であり、基準となる過去がありません。② killed は動詞だけで文が成立しません。③ were dead は「死んでいた状態」を表しますが、「地震で命を落とした」という出来事を表すには不自然です。kill は他動詞なので受動態で用いられ、「～で亡くなった」と訳されることが多い重要表現です。したがって were killed が正解です。

- (12) 正解③:その窓は昨夜、強い風で割られました。

[解説]主語 The window は「割る側」ではなく「割られる側」です。そのため受動態が必要です。また last night があるため過去時制を用います。break の過去分詞は broken なので、過去受動態 was broken が正しい形です。① was break は過去分詞になっていません。② was broke は broke が過去形であり誤りです。④ was breaking は過去進行形で「割れている最中だった」という意味になります。break - broke - broken の活用は頻出なので確実に覚えましょう。したがって was broken が正解です。

1-3 未来の受動態:will be+過去分詞

- (13) 正解②:大統領選挙は2年後に行われます。

[解説]主語 The presidential election は「行う側」ではなく「行われる側」です。そのため受動態を用います。また in two years があるため未来を表しています。未来受動態は will be + 過去分詞 の形になります。hold は「開催する」、その過去分詞は held です。したがって will be held が正解です。① will hold は能動態で「選挙が開催する」となります。③ will held は文法的に誤りです。④ are hold も不正確です。会議・試験・選挙・オリンピックなどは hold の受動態が頻出です。

- (14) 正解①:ただ待っているだけでは何も得られないでしょう。

[解説]Nothing は「得る側」ではなく「得られるもの」です。そのため gain を受動態にした形が必要です。また文全体は未来について述べているので future passive を用いて will be gained となります。② will gain は能動態です。③ has gained は現在完了です。④ gains は現在形です。gain は「得る」という意味ですが、Nothing will be gained by waiting. は「待っているだけでは何も得られない」という有名な表現です。したがって will be gained が正解です。

- (15) 正解②:その結果は明日学校のホームページに掲載されます。

[解説]主語 The results は「掲載する側」ではなく「掲載される側」です。そのため受動態を用います。また tomorrow があるため未来を表しています。post の過去分詞は posted なので、未来受動態 will be posted が正解です。① will be post は過去分詞になっていません。③ will be posting は未来進行形です。④ will be posts は文法的に誤りです。掲示・

掲載を表す post は受動態でよく使われる動詞です。したがって will be posted が正解です。

1-4 助動詞+受動態

- (16) 正解③:ダンス会場の音楽は非常に大きく、遠くからでも聞こえました。
 [解説]主語 The music は「聞く側」ではなく「聞かれる側」です。そのため受動態が必要です。助動詞 could の後は be+過去分詞 の形になります。hear の過去分詞は heard なので could be heard が正しい形です。① can hear は能動態です。② can have heard は完了形で意味が合いません。④ could be hearing は文法的に不自然です。hear は「聞こえる」と訳されることもありますが、英語では受動態になることが多いので注意しましょう。
- (17) 正解②:インフレはどんな犠牲を払ってでも抑えなければなりません。
 [解説]主語 Inflation は「抑える側」ではなく「抑えられる側」です。そのため受動態を用います。助動詞 must の後は be+過去分詞 が必要です。control の過去分詞は controlled なので must be controlled が正解です。① must control は能動態です。③ must be controlling は進行形です。④ must have controlled は完了形です。助動詞を含む受動態は「助動詞+be+過去分詞」という形をまず確認することが大切です。
- (18) 正解②:交通規則はすべての運転手によって守られなければなりません。
 [解説]元の文は Every driver must keep the traffic rules. です。目的語 the traffic rules を主語にして受動態にすると、The traffic rules must be kept by every driver. となります。keep の過去分詞は kept です。① must keep は能動態です。③ must have kept は完了形です。④ must keeping は文法的に誤りです。書き換え問題では、まず目的語を主語に移し、助動詞はそのまま残して be+過去分詞を加えるという手順を覚えましょう。
- (19) 正解②:緊急時には、助けを求めるための正しい電話番号を電話帳で見つけることができます。
 [解説]主語 the correct numbers は「見つける側」ではなく「見つけられる側」です。そのため受動態が必要です。助動詞 can の後は be+過去分詞となるので can be found が正解です。① can find は能動態です。③ can be found for help to dial は語順が不自然です。④ can found は be が欠けています。find の受動態は頻出で、「～が見つかる」「～を見つめることができる」という意味になります。
- (20) 正解③:食品が傷まないように、冷蔵庫の温度は低く保たれるべきです。
 [解説]主語 The temperature は「保つ側」ではなく「保たれる側」です。そのため受動態が必要になります。助動詞 should の後は be+過去分詞 を用いるので should be kept が正解です。① keep は能動態です。② kept は be が欠けています。④ have kept は完了形で意味が合いません。keep A low は「Aを低く保つ」という重要表現で、その受動態が be kept low です。したがって should be kept が正解です。
- (21) 正解②:この薬は涼しく乾燥した場所に保管されるべきです。
 [解説]主語 This medicine は「保管する側」ではなく「保管される側」です。そのため受動態が必要になります。また should があるので、助動詞を含む受動態 should be+過去分詞 の

受動態

形を用います。store は「保管する」という他動詞で、過去分詞は stored です。したがって should be stored が正解です。① store は原形で能動態です。③ storing は現在分詞です。④ have stored は現在完了の能動態になります。薬・食品・ワインなどを主語にした場合、「～に保管される」は store の受動態が頻出です。

(22) 正解④:この機械は誰によって発明されたのですか。

[解説]invent A は「A を発明する」という他動詞です。この文は受動態の動作主を尋ねる疑問文であり、「誰によって」を表す by が必要です。Who was this machine invented by? という形になります。① of、② into、③ in はいずれも invent の動作主を示せません。受動態では動作主を示す前置詞として by が用いられるのが原則です。なお、より正式な表現では By whom was this machine invented?(=次の(23))となります。したがって by が正解です。

(23) 正解③:この機械は誰によって発明されたのですか。

[解説](22)と同内容ですが、こちらは正式な語順です。受動態で動作主を尋ねる場合は By whom + 受動態疑問文 を用います。By whom was this machine invented? が完成形です。① Who は主格であり、この位置には置けません。② Whom だけでは前置詞が不足しています。④ With whom は「誰と一緒に」という意味になってしまいます。大学入試では By whom が頻出です。日常会話では Who was it invented by? もよく使われます。

(24) 正解③:学校はどのような記号で示されますか。

[解説]By what sign is school signified? という受動態です。signify は「示す・表す」という他動詞です。主語 school は示す側ではなく示される側なので受動態が必要です。空所の前に is があるため、過去分詞 signified を置いて受動態を完成させます。① is はすでに文中にあります。② school は主語です。④ what は疑問詞です。受動態では be 動詞の後に過去分詞を置くという基本を確認する問題です。

(25) 正解②:その荷物は壊れ物としてどんな印で示されていますか。

[解説]signify A as B は「A を B として示す」という意味です。この文では package が示される側なので受動態になります。By what mark is the package signified as fragile? が正しい形です。① signify は原形です。③ signifying は現在分詞です。④ signifies は現在形です。受動態では is の後ろに過去分詞が必要になります。したがって signified が正解です。

(26) 正解①:その古い図書館は今年の夏休みには使用されません。

[解説]主語 The old library は「使う側」ではなく「使われる側」です。そのため受動態を用います。また this year があり、未来の予定について述べているので future passive を用います。未来受動態は will be + 過去分詞 です。use の過去分詞は used なので will not be used が正解です。② will not use は能動態です。③ is not used は現在受動態で時制が合いません。④ did not use は過去形です。

(27) 正解③:これらの本はもう私たちの図書館には置かれていません。

[解説]主語 These books は保管される側なので受動態が必要です。空所の前に are not

があるため、受動態の形 are not kept を完成させる kept が入ります。keep A は「A を保管する」という意味の他動詞で、過去分詞は kept です。① keep は原形です。② keeping は現在分詞です。④ keeps は現在形です。anymore があるため、「もはや置かれていない」という意味になります。したがって kept が正解です。

(28) 正解②:このケーキは昨日あなたのお姉さんによって作られたのですか。

[解説]make A は「A を作る」という他動詞です。cake は作られる側なので受動態になります。空所の前に Was があるため、過去受動態 was made を完成させる made が必要です。① make は原形です。③ making は現在分詞です。④ makes は現在形です。by your sister があることから受動態であることが分かります。make-made-made の活用は頻出なので確実に覚えましょう。

(29) 正解②:この橋はあなたの町でいつ建設されたのですか。

[解説]bridge は建設する側ではなく建設される側です。そのため受動態を用います。build の過去分詞は built なので、When was this bridge built? が正しい形です。① build は原形です。③ building は現在分詞です。④ builds は現在形です。橋・建物・寺院・道路などを主語にした問題では build の受動態が非常によく出題されます。したがって built が正解です。

(30) 正解③:この手紙は誰によって書かれたのですか。

[解説]write A は「A を書く」という他動詞です。受動態で動作主を尋ねる場合は by を用います。Who was this letter written by? が完成形です。① with は手段、② at は場所、④ for は目的を表す前置詞であり、動作主は表せません。正式には By whom was this letter written? という形になります。受動態の動作主 = by を確認する問題です。

(31) 正解②:その荷物は壊れ物としてどんな印で示されていますか。

[解説](25)と同じ問題です。主語 package は示される側なので受動態です。空所の前に is があるため、過去分詞 signified が必要です。① signify は原形、③ signifying は現在分詞、④ signifies は現在形です。受動態では be 動詞 + 過去分詞になることを確認しましょう。したがって signified が正解です。

2-1 SVO の受動態

(32) 正解①:スペースシャトルはジャンボジェットによって運ばれました。

[解説]元の文は The jumbo jet carried the space shuttle. です。目的語 the space shuttle を主語にして受動態にすると、The space shuttle was carried by the jumbo jet. となります。carry の過去分詞は carried です。② carried by は be 動詞がありません。③ was carried with は前置詞が誤りです。④ was carrying by は進行形になっています。受動態の書き換えでは、目的語 → 主語、be + 過去分詞、by + 動作主という手順を意識しましょう。

(33) 正解①:英語は今日、世界中の多くの国で話されています。

[解説]People speak English ~ の目的語 English を主語にした受動態です。English

受動態

は話す側ではなく話される側なので受動態になります。一般的事実を表しているため現在受動態 is spoken が正解です。② speaks は能動態です。③ is speaking は進行形です。④ was spoken は過去受動態です。English is spoken ～ は受動態の代表例として頻出です。

- (34) 正解②:教室の窓は昨夜の激しい嵐で割られました。

[解説]Someone broke the classroom window. の目的語 the classroom window を主語にした受動態です。window は割られる側なので受動態になります。last night があるため過去受動態 was broken を用います。① broke は能動態です。③ was breaking は過去進行形です。④ has broken は現在完了の能動態です。break－broke－broken の活用と受動態の組み合わせを確認する問題です。

2-2 自動詞・他動詞・句動詞

- (35) 正解②:その不審な男は駅で何人かの人に見られていました。

[解説]look at A は「Aを見る」という句動詞です。look は自動詞なので、受動態になるのは look at の形です。The strange man was looked at by several people. が正しい文です。① looked では at がありません。③ seen at は「～で見られた」となり意味が不自然です。④ seen to は別の表現です。句動詞の受動態では前置詞を残すことが重要です。

- (36) 正解③:晴れた日には、この町から富士山の頂上を見ることができます。

[解説]see A は他動詞なので、その受動態は be seen になります。Mt. Fuji の頂上は「見られる側」ですから can be seen が正解です。① looked は自動詞です。② looked at は「見つめられる」という意味になります。④ seen at は前置詞が不要です。look at は意識的に見る、see は自然に見えるという違いも重要です。

- (37) 正解③:隣の部屋から大きな悲鳴が聞こえました。

[解説]hear A は「Aが聞こえる」という他動詞です。主語 A loud scream は聞く側ではなく聞かれる側なので受動態になります。A loud scream was heard from the next room. が正しい形です。① listened は自動詞 listen の過去分詞です。② listened to は「耳を傾けられた」です。④ heard to は誤りです。悲鳴・音・声などは hear の受動態がよく使われます。

- (38) 正解②:彼の助言にはもっと注意深く耳を傾けるべきです。

[解説]listen to A は「Aに耳を傾ける」という句動詞です。advice は聞き手の対象なので受動態では be listened to の形になります。① listened は to がありません。③ heard は「聞こえる」という意味で、注意して聞くという意味になりません。④ heard to は誤りです。hear と listen to の違いを問う典型問題で、advice に対しては listen to が自然です。したがって listened to が正解です。

- (39) 正解②:私は先週の誕生日に、おばから役立つ辞書をもらいました。

[解説]元の文は My aunt gave me a useful dictionary. です。give は SVOO(人に物を与える)の文型を取る動詞です。受動態では「人」を主語にすることもできるため、I was given a useful dictionary. となります。主語 I は与える側ではなく与えられる側なので受

動態が必要です。① gave は能動態の過去形です。③ was giving は過去進行形です。④ have given は現在完了の能動態です。give 型の SVOO は「人」を主語にした受動態が非常によく出題されます。したがって was given が正解です。

- (40) 正解①: 役立つ辞書が先週、誕生日の贈り物として私に与えられました。

[解説] 同じ文を今度は「物」を主語にした受動態です。A useful dictionary was given to me. の形になります。物を主語にする場合は to+人 が必要です。① was given to が正しい形です。② was given for は前置詞が誤りです。③ gave to は能動態です。④ was given by は「～によって与えられた」となり、人を表す me を続けることができません。give 型では「人主語」と「物主語」の両方の受動態が作れることを覚えましょう。

- (41) 正解②: 私たちは今朝授業で正しい答えを見せてもらいました。

[解説] show A B は「AにBを見せる」という SVOO の文型です。目的語 us を主語にした受動態では We were shown the correct answer. となります。主語 We は見せる側ではなく見せられる側です。① showed は能動態です。③ were showing は過去進行形です。④ have shown は現在完了の能動態です。show、give、teach、tell などの SVOO 動詞は、人を主語にした受動態が頻出です。したがって were shown が正解です。

- (42) 正解①: 正しい答えが今朝授業で私たちに示されました。

[解説] (41)と同じ文ですが、今度は「物」を主語にした受動態です。The correct answer was shown to us. が完成形です。show は物主語の受動態では to+人 を用います。② was shown for は誤りです。③ showed to は能動態です。④ was showing to は進行形で不自然です。show 型の受動態では was shown to 人 をそのまま覚えておくと便利です。

- (43) 正解①: 彼女は駅員から役立つ地図をもらいました。

[解説] give の受動態です。She was given a helpful map. という形になります。空所の前に was があるため、過去分詞 given が必要です。② gave は過去形です。③ giving は現在分詞です。④ to give は不定詞です。give-gave-given の活用は非常に重要で、受動態では必ず過去分詞 given を用います。したがって given が正解です。

- (44) 正解③: 彼女は幼い娘から美しい花を見せてもらいました。

[解説] show の受動態です。She was shown a beautiful flower. という形になります。空所の前に was があるため過去分詞 shown が必要です。① show は原形です。② showing は現在分詞です。④ shows は現在形です。show-showed-shown の活用は不規則なので注意しましょう。したがって shown が正解です。

- (45) 正解③: 私たちは練習後、コーチからその悪い知らせを聞かされました。

[解説] tell A B は「AにBを伝える」という SVOO の文型です。受動態では We were told the bad news. となります。tell の過去分詞は told です。① tell は原形です。② telling は現在分詞です。④ tells は現在形です。tell-told-told の活用は頻出です。また tell は人主語の受動態がよく出題されるので覚えておきましょう。

(46) 正解②: 役立つ辞書が先週おばから私に与えられました。

[解説] 辞書は「与えられる物」です。文末に to me があるため、動詞は give が最も自然です。A useful dictionary was given to me. が完成形になります。① bought は「買われた」です。③ prepared は「準備された」です。④ broken は「壊された」です。文脈上、辞書を人に渡すのは give が適切です。したがって given が正解です。

(47) 正解①: すてきな手紙が昨日、昔の友人から彼女に送られました。

[解説] 手紙に対して用いる動詞は send が最も自然です。A nice letter was sent to her. となります。① sent が正解です。② bought は「買われた」です。③ caught は「捕まえられた」です。④ found は「見つけられた」です。手紙・メール・荷物などは send の受動態が頻出です。したがって sent が正解です。

(48) 正解①: 新しい自転車が先月、おじから彼のために買われました。

[解説] for him があるため、「彼のために買う」という buy A for B の構文です。受動態では A new bike was bought for him. となります。② taught は「教えられた」です。③ told は「伝えられた」です。④ shown は「見せられた」です。buy は SVOO ではなく buy A for B の形を取るため、受動態では for が残ることに注意しましょう。

(49) 正解①: 試合の後、子どもたちのために温かい飲み物が出されました。

[解説] serve A は「Aを出す・提供する」という意味です。A hot drink was served for the children. が自然な文になります。② bought は「買われた」です。③ taught は「教えられた」です。④ left は「残された」です。飲み物・食事・料理などが主語の場合は serve の受動態が頻出です。したがって served が正解です。

2-4 SVOC の受動態

(50) 正解②: 彼は決勝戦の後、チームのキャプテンに選ばれました。

[解説] elect A C は「AをCに選ぶ」という SVOC 文型です。目的語 him を主語にすると、He was elected captain of the team. となります。補語 captain はそのまま残るのが特徴です。① elected は過去分詞だけです。③ was electing は進行形です。④ has elected は能動態です。SVOC の受動態では補語 C が残ることを必ず確認しましょう。したがって was elected が正解です。

(51) 正解②: 彼女は昨日駅で、その良い知らせによってとても幸せになりました。

[解説] make A C は「AをCの状態にする」という SVOC 文型です。The good news made her very happy. を受動態にすると、She was made very happy. となります。補語 very happy はそのまま残ります。① made は能動態です。③ was making は進行形です。④ has made は現在完了です。SVOC の受動態では補語が残ることを確認する代表問題です。

(52) 正解①: その少女は昼食後、先生によって疲れている状態で発見されました。

[解説] find A C は「AがCであるのを見つける」という SVOC 文型です。受動態では The girl was found tired. となります。tired は主語 The girl の状態を表す補語です。②

tire は動詞です。③ tiring は「疲れさせるような」という意味になります。④ tiredly は副詞です。補語には主語の状態を表す形容詞が入ります。したがって tired が正解です。

- (53) 正解③:その窓は誤って一晩中閉められたままでした。

[解説]leave A C は「A を C の状態のままにしておく」という SVOC 文型です。The window was left closed. となります。closed は窓の状態を表す補語です。① close は動詞です。② closing は現在分詞です。④ closes は現在形です。leave O closed、leave O open は非常に頻出の形なのでまとめて覚えましょう。

- (54) 正解②:彼はクラスのみんなから正直者と呼ばれていました。

[解説]call A C は「A を C と呼ぶ」という SVOC 文型です。He was called honest. が完成形です。honest は主語 He を説明する補語です。① honesty は名詞です。③ honestly は副詞です。④ to honest は文法的に誤りです。call、name、elect、make などの SVOC 動詞では補語がそのまま残ることが重要です。したがって honest が正解です。

- (55) 正解②:私たちはベルの後、本を開くように先生に言われました。

[解説]tell A to V は「A に V するように言う」という形です。元の文では us が目的語なので、受動態では We were told to open our books. となります。SVO to V 型の受動態では、目的語が主語になり、to V はそのまま残ります。① told to は be 動詞がなく不完全です。③ were told はその後に to open が続かず、文が完成しません。④ had told to は能動態の過去完了で、主語 We と合いません。したがって were told to が正解です。

- (56) 正解②:生徒たちはその新しいソフトによって、自宅で英語を勉強できるようになりました。

[解説]enable A to V は「A が V できるようにする」という意味です。students を主語にして受動態にすると、Students were enabled to study English at home. となります。enable は SVO to V 型の動詞なので、受動態でも to study が残ります。① enabled to は be 動詞がありません。③ were enabled だけでは to study が欠けます。④ had enabled to は能動態で、主語 Students との関係が合いません。したがって were enabled to が正解です。

- (57) 正解②:彼は日曜日に車を使うことを許されました。

[解説]allow A to V は「A が V することを許す」という形です。元の文では him が目的語なので、受動態では He was allowed to use the car on Sundays. となります。allow の受動態は be allowed to V の形で非常によく出題されます。① allowed to は be 動詞がありません。③ was allowed は to use がなく、意味が不完全です。④ had allowed to は能動態の過去完了です。したがって was allowed to が正解です。

- (58) 正解③:彼は放課後、学校の図書館を使うことを許されました。

[解説]この文は be allowed to V「V することを許される」の形を問う問題です。文中に He was allowed までであるため、その後には to 不定詞が必要です。したがって to use the school library となります。① use は原形で、allowed の後に直接置けません。② using は動名詞・現在分詞です。④ used は過去形・過去分詞で、ここでは不適切です。allow A to V の受動態は A is allowed to V と覚えましょう。したがって to use が正解です。

- (59) 正解④: 私たちはできるだけ静かに部屋を出るように言われました。
 [解説] tell A to V は「AにVするように言う」です。受動態では A be told to V となります。文中には We were told があるため、その後には to leave が必要です。leave the room は「部屋を出る」という意味です。① leave は原形で、told の後には不十分です。② leaving は動名詞・現在分詞です。③ left は過去形・過去分詞です。tell の受動態では to V が残る点が重要です。したがって to leave が正解です。
- (60) 正解③: 彼女は翌日もう一度医者に診てもらおうよう助言されました。
 [解説] advise A to V は「AにVするよう忠告する」という形です。受動態では A be advised to V となります。文中に She was advised があるため、その後には to see が必要です。see the doctor は「医者に診てもらおう」という意味です。① see は原形です。② seeing は動名詞・現在分詞です。④ seen は過去分詞です。advise、tell、order、encourage などは受動態で be+過去分詞+to V になります。したがって to see が正解です。
- (61) 正解④: 生徒たちは嵐の間、屋内にいるよう命じられました。
 [解説] order A to V は「AにVするよう命令する」という意味です。受動態では A be ordered to V になります。The students were ordered to stay inside during the storm. が完成形です。① stay は原形で、ordered の後にはそのまま置けません。② staying は動名詞・現在分詞です。③ stayed は過去形・過去分詞です。SVO to V 型の受動態では to V が残ることを確認しましょう。したがって to stay が正解です。
- (62) 正解③: 彼は先生にスピーチコンテストに出るよう励まされました。
 [解説] encourage A to V は「AにVするよう励ます」という意味です。受動態では A be encouraged to V となります。文中には He was encouraged があるので、その後には to enter が必要です。enter the speech contest は「スピーチコンテストに出場する」という意味です。① enter は原形です。② entering は動名詞・現在分詞です。④ entered は過去形・過去分詞です。したがって to enter が正解です。
- (63) 正解④: 私たちはその日の正午までに報告書を仕上げることを期待されていました。
 [解説] expect A to V は「AがVすることを期待する」という形です。受動態では A be expected to V となります。We were expected to finish the report before noon. が完成形です。① finish は原形です。② finished は過去形・過去分詞です。③ finishing は動名詞・現在分詞です。expect は受動態で be expected to V の形を取りやすい動詞です。したがって to finish が正解です。

3-1 現在完了の受動態

- (64) 正解②: できるだけ早く警官を見つけなければなりません。なぜなら私のバッグが盗まれてしまったからです。
 [解説] steal A は「Aを盗む」という他動詞です。my bag は盗む側ではなく盗まれる側なので受動態が必要です。また、バッグが盗まれた結果、今困っているという現在とのつながりがあるため、現在完了の受動態を用います。現在完了受動態は has / have been + 過去分詞です。

- ① has been stealing は現在完了進行形の能動態です。③ has stolen も能動態です。④ was being stolen は過去進行形の受動態です。したがって has been stolen が正解です。
- (65) 正解②:数人の人々が法律違反で告発されています。
 [解説]accuse A of B は「AをBのことで告発する・非難する」という意味です。Several people は告発する側ではなく告発される側なので受動態になります。また have が使える主語で、現在までの出来事として述べているため、現在完了の受動態 have been accused が必要です。① have accused は能動態です。③ was accused は単数主語用で、Several people と一致しません。④ were accusing は過去進行形の能動態です。したがって have been accused が正解です。
- (66) 正解④:ある人々は、言葉はそれに対する必要性が感じられたときにだけ作られると主張しています。
 [解説]feel a need for A は「Aの必要性を感じる」という表現です。この文では a need が主語なので、「必要性が感じられる」という受動態が必要です。また、必要性が現在までに感じられてきた結果として言葉が発明される、という内容なので現在完了受動態 has been felt が適切です。① feels は能動態の現在形です。② felt は過去形または過去分詞だけで不完全です。③ had felt は過去完了の能動態です。したがって has been felt が正解です。
- (67) 正解③:その大学図書館はこの10年間閉鎖されたままです。
 [解説]for the last ten years は「この10年間」という継続期間を表し、現在完了と相性がよい表現です。close A は「Aを閉鎖する」という他動詞で、the university library は閉鎖される側なので受動態になります。したがって has been closed が正解です。① is closed は現在の状態だけを表し、10年間の継続が出ません。② closes は能動態です。④ closed は過去形または過去分詞だけで文が成立しません。したがって has been closed が正解です。
- (68) 正解②:アメリカの価値観については多くのことが書かれてきました。
 [解説]write A about B は「BについてAを書く」という意味です。Much は「多くのこと」で、書く側ではなく書かれる内容です。文中に has があるので、現在完了の受動態 has been written を作る必要があります。① written は過去分詞だけで、has written なら能動態になります。③ being written は進行形の一部です。④ been writing は現在完了進行形の能動態です。Much has been written about ~ は「~について多くが書かれてきた」という頻出表現です。したがって been written が正解です。
- (69) 正解②:今までのところ、調査委員会によって何も報告されていません。
 [解説]Up to now は「今までのところ」という意味で、現在完了と結びつきやすい表現です。report A は「Aを報告する」という他動詞で、nothing は報告される内容なので受動態が必要です。主語 nothing は単数扱いなので has been reported となります。① has been reporting は現在完了進行形の能動態です。③ is reporting は現在進行形の能動態です。

受動態

④ is being reported は現在進行形の受動態ですが、Up to now とは合いません。したがって has been reported が正解です。

3-2 過去完了の受動態

(70) 正解④: 秘書は郵便物を開けましたが、それはその朝配達されていたものでした。

[解説] deliver A は「A を配達する」という他動詞です。mail は配達する側ではなく配達される側なので受動態になります。また、郵便物が配達されたのは、秘書が opened the mail した時点よりも前です。過去のある時点より前に完了していたことを表すため、過去完了の受動態 had been delivered を用います。① delivered は能動態または過去分詞だけです。② is delivered は現在受動態です。③ had delivered は過去完了の能動態です。したがって had been delivered が正解です。

(71) 正解①: 幸いにも、病院の新しい空調設備は、その夏最初の熱波が来た時にはすでに設置されていました。

[解説] install A は「A を設置する」という意味です。air-conditioning system は設置する側ではなく設置される側なので受動態になります。また、設置が完了したのは the first heat wave arrived より前です。そのため過去完了の受動態 had already been installed が必要です。② had already been installing は過去完了進行形の能動的な形です。③ had already installed は能動態です。④ already installed は動詞が不足しています。したがって had already been installed が正解です。

3-3 未来完了の受動態

(72) 正解③: 来年 3 月までには、その新しい橋は地元の技術者たちによって完成されているでしょう。

[解説] complete A は「A を完成させる」という他動詞です。the new bridge は完成させる側ではなく完成される側なので受動態が必要です。また By next March は「来年 3 月までに」という未来の期限を表します。その時点までに完成が終わっていることを示すため、未来完了の受動態 will have been completed を用います。① will complete は未来の能動態です。② will have completed は未来完了の能動態です。④ has been completed は現在完了受動態で、未来の期限とは合いません。したがって will have been completed が正解です。

(73) 正解③: 来週までには、すべてのチケットはすでに売り切れているでしょう。

[解説] sell A は「A を売る」という他動詞です。all the tickets は売る側ではなく売られる側なので受動態になります。また By next week は未来の期限を表し、その時点までに売り切れていることを示しています。したがって未来完了受動態 will have been sold が必要です。① will sell は能動態です。② will have sold は未来完了の能動態です。④ are sold は現在受動態で、未来完了の意味が出ません。したがって will have been sold が正解です。

解答解説⑥(74~102)

(74) 正解①: 発表が行われている間、先生たちはメモを取っていました。

[解説] presentation は「行う」側ではなく「行われる」側なので受動態が必要です。give a presentation は「発表を行う」という表現で、受動態では the presentation is given と

なります。ここでは while と were taking notes があり、「発表が行われている最中」を表すため、過去進行形の受動態 was being given が適切です。② has been given は現在完了受動態です。③ was giving は能動態です。④ gave も能動態です。したがって was being given が正解です。

(75) 正解①:鉄道橋がすでに川の上に建設されています。

[解説]railway bridge は「建てる」側ではなく「建てられる」側なので受動態になります。また already があり、建設が進行中であることを表しているため、進行形の受動態が必要です。進行形の受動態は be being+過去分詞 です。文中に is があるので、空所には being built が入ります。② having built は完了分詞で不適切です。③ builds は能動態です。④ building は現在分詞だけで、受動態になりません。したがって being built が正解です。

(76) 正解③:新しい建物がキャンパス内に建設されています。

[解説]construct A は「Aを建設する」という他動詞です。A new building は建設される対象なので、受動態を用います。また「現在建設中である」という意味なので、進行形の受動態 is being constructed が必要です。① has では has constructed などになり能動態寄りです。② being だけでは主語に対応する be 動詞がありません。④ had は過去完了を作る助動詞で、この文脈に合いません。したがって is being が正解です。

(77) 正解①:鉄道橋が川の上に建設されています。

[解説]bridge は建設する側ではなく建設される側です。そのため受動態が必要です。また文中に is があり、「今、建設中である」という進行中の状態を表しているため、is being built の形にします。① being built は進行形受動態を完成させる正しい形です。② having built は完了分詞で、この位置には置けません。③ being building は being の後が過去分詞ではなく現在分詞なので誤りです。④ building は能動的な現在分詞です。したがって being built が正解です。

(78) 正解③:最近、家の前で道路が建設されているので、勉強に集中しにくいです。

[解説]road は「建設する」側ではなく「建設される」側です。build A は「Aを建設する」という他動詞なので、a road を主語にすると受動態になります。また lately と前半の has been hard から、現在進行中の工事が今も影響していると分かります。したがって現在進行形の受動態 is being built が適切です。① builds は能動態です。② has built も能動態です。④ is building は「道路が建てている」という不自然な意味になります。したがって is being built が正解です。

(79) 正解②:誰かが私たちの後ろを歩いています。私たちは尾行されていると思います。

[解説]follow A は「Aの後をつける」という他動詞です。we は「後をつける側」ではなく「後をつけられる側」なので受動態になります。また There's somebody walking behind us. とあるので、「今まさに尾行されている」という進行中の状況です。したがって現在進行形の受動態 are being followed を用います。① are following は能動態です。③ are followed は単なる現在受動態で、今進行中の感じが弱くなります。④ are being following は being の後が過去分詞でないため誤りです。したがって are being followed が正解です。

- (80) 正解①:昨日エンジントラブルがあったので、今その車は修理中です。

[解説]repair A は「Aを修理する」という他動詞です。it は前文の my car を指し、車は修理する側ではなく修理される側です。また at the moment があるため、「今まさに修理されている」という進行中の受動態が必要です。文中に is があるので、is being repaired となります。② having been repaired は完了分詞で、この文の述語になりません。③ have repaired は能動態です。④ repaired だけでは「修理済み」の状態に近く、進行中の意味が出ません。したがって being repaired が正解です。

- (81) 正解③:その老婦人は回復してきており、病院の看護師に手厚く世話されています。

[解説]take good care of A は「Aの世話をよくする」という群動詞です。主語 The old woman は世話をする側ではなく世話をされる側なので受動態が必要です。また is getting better and ~ とあり、and の後も現在進行中の状況を表します。したがって is being taken good care of の形になります。① taking は能動的で、② is taking も能動態で「老婦人が世話している」となります。④ having taken は完了分詞で述語になりません。したがって is being taken が正解です。

4-1 句動詞の受動態 1…speak to 型

- (82) 正解②:帰宅途中、太郎は見知らぬ人に話しかけられました。

[解説]speak to A は「Aに話しかける」という句動詞です。Taro は話しかける側ではなく話しかけられる側なので受動態になります。句動詞の受動態では、前置詞 to を落とさず be spoken to by A とします。① spoken at は speak at という不自然な形です。③ spoken by は to がなく、「話しかけられた」という意味になりません。④ spoken with by は「一緒に話す」のような別表現が混ざっています。したがって spoken to by が正解です。

- (83) 正解④:昨日、私は外国人に日本語で話しかけられました。

[解説]speak to A in Japanese は「Aに日本語で話しかける」という表現です。主語 I は話しかける側ではなく話しかけられる側なので受動態になります。Yesterday I was spoken to in Japanese by a foreigner. が完成形です。① spoken は to がなく不完全です。② being spoken は進行形の一部で、この文では was being spoken to などではなければ不自然です。③ speaking to は能動態です。句動詞の受動態では前置詞 to を残すことが重要です。したがって spoken to が正解です。

- (84) 正解①:学校から帰る途中、その少女は見知らぬ人に話しかけられました。

[解説]speak to A は「Aに話しかける」という句動詞です。the little girl は話しかける側ではなく話しかけられる側なので、受動態 was spoken to by a stranger が必要です。① spoken to by が正しい形です。② spoken to は後ろの a stranger とつながらず、動作主を示す by が不足します。③ spoke は能動態です。④ spoken by to は語順が誤りです。話しかけた人を表すときは by a stranger を用いるため、spoken to by が正解です。

- (85) 正解③:同じ間違いをすれば、あなたはみんなに笑われるでしょう。

[解説]laugh は自動詞なので、そのままでは受動態を作れません。しかし laugh at A は「Aを笑う」という句動詞になり、受動態では be laughed at by A となります。主語 you は笑う

側ではなく笑われる側です。① be laughed by は at が欠けています。② be laughing at は能動の進行形です。④ laugh at は能動態です。句動詞の受動態では前置詞を落とさないことが最重要です。したがって be laughed at by が正解です。

- (86) 正解②: その少女はクラスメート全員に笑われました。

[解説] laugh at A は「A を笑う」という句動詞です。the girl は笑う側ではなく笑われる側なので、受動態 was laughed at by all her classmates が必要です。① laughed は at がなく、laugh は自動詞なので受動態として不完全です。③ laughed by も at がありません。④ laughed by at は語順が誤りです。by は動作主、at は laugh at の一部として必要です。したがって laughed at by が正解です。

- (87) 正解③: その少女はジョンに見られました。

[解説] look at A は「A を見る」という句動詞です。the girl は見る側ではなく見られる側なので、受動態では was looked at by John となります。① looked by は at がないため誤りです。② looked at は句動詞としては正しいですが、後ろに John があるので動作主を示す by が必要です。④ looked は at がなく不完全です。look は自動詞なので、受動態にするには look at 全体を一つの他動詞のように扱う必要があります。したがって looked at by が正解です。

- (88) 正解①: その問題は今もまだ政府によって調査されています。

[解説] look into A は「A を調査する」という句動詞です。The matter は調査する側ではなく調査される側なので受動態になります。また「今もまだ調査されています」とあるため、進行形の受動態 is being looked into が必要です。② is looking into は能動態で「問題が調査している」となります。③ is being looked は into がなく、look into の意味になりません。④ is looked into by は現在受動態で、進行中の意味が弱くなります。したがって is being looked into が正解です。

- (89) 正解②: 私が滑ったとき、大勢の観客に見られるのは本当に恥ずかしいことでした。

[解説] look at A は「A を見る」という句動詞です。to be looked at by such a big audience で「大勢の観客に見られること」という意味になります。① looked は at がなく不完全です。③ looked into は「調査される」という意味で文脈に合いません。④ looking at は能動態で、「見ること」になってしまいます。この文では「見られる」側なので受動態が必要で、句動詞 look at の at を残す必要があります。したがって looked at が正解です。

- (90) 正解②: 彼はアラスカへ行って以来、消息を聞かれていません。

[解説] hear from A は「A から連絡がある」という句動詞です。He has never been heard from since ~ で「彼からはそれ以来連絡がない」という意味になります。主語 He は「連絡する側」ではなく、「消息を聞かれる対象」として受動的に表されます。① heard from は能動態です。③ been heard は from がなく、「連絡がある」の意味になりません。④ heard of は「～の噂を聞く・存在を知る」で意味が異なります。したがって been heard from が正解です。

- (91) 正解②:彼らの消息はそれ以上聞かれませんでした。

[解説]hear of A は「A の消息を聞く・A について耳にする」という句動詞です。They were heard of no more. は「彼らの消息はそれきり聞かれなかった」という表現です。① with は hear with の形になり不適切です。③ about は hear about A「A について聞く」として近い意味はありますが、この定型表現では hear of を用います。④ out は hear out「最後まで聞く」となり意味が違います。句動詞の受動態では前置詞を含めて覚える必要があります。したがって of が正解です。

- (92) 正解③:この難しい問題は私たちのチームによって処理されなければなりません。

[解説]deal with A は「A を扱う・処理する」という句動詞です。This difficult problem は処理される側なので受動態になります。助動詞 must を含むため、must be dealt with by our team となります。① must be dealt by は with がなく、deal with の意味になりません。② must be dealt with は文法的には正しいですが、後ろの by our team とつながるには選択肢全体として不足します。④ must be dealing with by は進行形で誤りです。したがって must be dealt with by が正解です。

- (93) 正解①:その赤ちゃんは夏休みの間、おばによって世話されました。

[解説]look after A は「A の世話をする」という句動詞です。The baby は世話をする側ではなく世話される側なので、受動態 was looked after が必要です。① was looked after が正解です。② was looking after は能動態の過去進行形で「赤ちゃんが世話していた」となります。③ looked after は能動態です。④ had been looking after は過去完了進行形の能動態です。句動詞の受動態では after を残すことが重要です。

4-2 句動詞の受動態 2…take care of 型

- (94) 正解①:赤ちゃんの世話は看護師がいたします。

[解説]take care of A は「A の世話をする」という群動詞です。The baby は世話される側なので受動態にします。未来を表す will があるため、will be taken care of となります。① be taken care of が正しい形です。② be taken care は of が欠けています。③ take care of は能動態です。④ be taken of care は語順が誤りです。take care of はまとまりで一つの他動詞のように扱うことが大切です。

- (95) 正解②:北海道滞在中、私はおばにとってもよく世話をされました。

[解説]take good care of A は「A の世話をよくする」という表現です。ここでは Good care を主語にした受動態で、Good care was taken care of me ではなく、慣用的に Good care was taken of me とします。① was taken of は good care の後に入る形としては不完全です。③ took care of は能動態です。④ was cared は通常この構文では用いません。take care of の受動態では、care を主語にする場合 Good care was taken of A となります。したがって was taken care of が正解です。

- (96) 正解②:健康には十分気をつけなければなりません。

[解説]take good care of A は「A を大切にする・A に注意する」という意味です。Good care must be taken of your health. で「健康には十分注意が払われなければならない」

となります。care を主語にした受動表現では、前置詞 of が残ります。① to、③ for、④ by は take care of の語法に合いません。by は動作主を表す前置詞ですが、ここでは「健康に対して」の of が必要です。したがって of が正解です。

- (97) 正解②:彼の助言はチームの若い選手たちによって注意を払われました。

[解説]pay attention to A は「Aに注意を払う」という群動詞です。His advice は注意を払われる対象なので受動態になります。群動詞の受動態では前置詞 to を残し、was paid attention to by となります。① at、③ with、④ for は pay attention to の前置詞ではありません。attention を目的語にした受動表現では形が複雑になりますが、pay attention to A を一まとまりで考えることが重要です。したがって was paid attention to by が正解です。

- (98) 正解②:チームの若い選手たちは彼の助言にまったく注意を払いませんでした。

[解説]pay attention to A は「Aに注意を払う」です。この文では No attention が主語になっており、No attention was paid to his advice. で「彼の助言には注意が払われなかった」となります。① at、③ with、④ for は pay attention to の語法に合いません。attention を主語にした受動態では、to を残すことが最重要です。したがって was paid to が正解です。

- (99) 正解③:彼の奇妙な行動は教室の数人の生徒に気づかれました。

[解説]take notice of A は「Aに気づく・Aに注目する」という群動詞です。His strange behavior は気づかれる対象なので受動態になります。受動態では was taken notice of by となります。① at、② to、④ with は take notice of の前置詞ではありません。群動詞の受動態では、最後の前置詞を落とさず残すことが必要です。したがって was taken notice of by が正解です。

- (100) 正解③:教室の数人の生徒は彼の奇妙な行動にまったく気づきませんでした。

[解説]take notice of A は「Aに気づく」です。この文では No notice が主語なので、No notice was taken of his strange behavior. となります。notice を主語にした受動表現では of を残します。① at、② to、④ with は take notice of の語法に合いません。pay attention to と同様、名詞を主語にした受動態では前置詞の選択が重要です。したがって was taken of が正解です。

- (101) 正解③:この小さな部屋は放課後、美術部によって利用されました。

[解説]make use of A は「Aを利用する」という群動詞です。This small room は利用される対象なので受動態になります。受動態では was made use of by the art club となります。① at、② to、④ with は make use of の前置詞ではありません。make use of は三語で一つの他動詞のように扱います。受動態でも of を落とさないことがポイントです。したがって was made use of by が正解です。

- (102) 正解③:放課後、美術部によってこの小さな部屋がうまく利用されました。

[解説]make good use of A は「Aをうまく利用する」という表現です。この文では Good use が主語になっており、Good use was made of this small room. となります。① at、

② to、④ with は make use of の語法に合いません。use を主語にした受動表現では、of が残ることが重要です。Good use was made of ～ は入試頻出の慣用受動態です。したがって was made of が正解です。

(103) 正解①: その子どもは、突然道路に飛び出したとき、車にはねられました。

[解説]run over A は「A を車でひく・はねる」という句動詞です。この文の主語 The child は「はねる側」ではなく「はねられる側」なので、受動態にする必要があります。空所の前に was があるため、後ろには過去分詞が来ます。run は不規則動詞で、run-ran-run と変化するので、過去分詞は run です。したがって was run over が正しい形です。② ran over は過去形であり、受動態の was の後には置けません。③ running over は現在分詞で、進行形の一部になります。④ to run over は不定詞で、was の後に置いて受動態を作ることはできません。句動詞の受動態では over も残す必要があります。したがって run over が正解です。

(104) 正解①: 彼の提案は、短い議論の後、委員会によって却下されました。

[解説]turn down A は「A を却下する・断る」という句動詞です。この文では His proposal が主語になっていますが、提案は「却下する側」ではなく「却下される側」です。したがって受動態が必要になります。空所の前に was があるので、過去分詞 turned を用いて was turned down とします。句動詞の受動態では、turn だけでなく down まで含めて一つの動詞のように扱います。② turn down は原形で、was の後には置けません。③ turning down は現在分詞で、進行形の形になります。④ to turn down は不定詞であり、受動態の述語にはなりません。by the committee があることから、委員会によって却下されたという受動態であることが分かります。したがって turned down が正解です。

(105) 正解①: 客が到着する前に、おもちゃの大半は片づけられていました。

[解説]put away A は「A を片づける」という句動詞です。主語 Most of the toys は「片づける側」ではなく「片づけられる側」なので、受動態を用います。空所の前に were があるため、後ろには過去分詞が必要です。put は put-put-put と変化する不規則動詞なので、過去分詞も put です。したがって were put away が正しい形です。② put down は「書き留める」「下に置く」などの意味で、「片づける」という文意に合いません。③ putting away は現在分詞で、were putting away なら能動態の進行形になります。④ to put away は不定詞です。before the guests arrived から、客が来る前に片づけられたという過去の受動態が必要です。したがって put away が正解です。

(106) 正解①: その古い計画は、当分の間、棚上げにされました。

[解説]set aside A は「A を脇に置く・一時保留にする・棚上げにする」という句動詞です。この文では The old plan が主語ですが、計画は「棚上げにする側」ではなく「棚上げにされる側」です。したがって受動態を用います。空所の前に was があるため、過去分詞が必要です。set は set-set-set と変化するため、過去分詞も set です。よって was set aside が正しい形になります。② set down は「書き留める」「下ろす」という意味で、計画を保留する意味にはなりません。③ setting aside は現在分詞です。④ to set aside は不定詞で、was の後に

置いて受動態を作ることはできません。for the time being は「当分の間」という意味で、計画を一時的に保留した文脈に合います。したがって set aside が正解です。

(107) 正解①: そのような失礼なふるまいは、私たちのクラスでは我慢されません。

[解説] put up with A は「A を我慢する・A に耐える」という句動詞です。この表現は put up だけでは意味が完成せず、with まで含めて一つのまとまりとして覚える必要があります。この文では Such rude behavior が主語で、「我慢する側」ではなく「我慢される対象」です。したがって受動態になり、cannot be put up with という形になります。空所の前に cannot be put up がすでにあるため、残る前置詞 with を入れます。② at、③ for、④ by は put up with の語法に合いません。特に by は受動態の動作主を表す前置詞ですが、この文では「誰によって」ではなく、句動詞 put up with の一部として with が必要です。句動詞の受動態では最後の前置詞を落とさないことが重要です。したがって with が正解です。

(108) 正解④: 学校改革の後、古い規則の大半は廃止されました。

[解説] do away with A は「A を廃止する・なくす」という句動詞です。この文では Most of the old rules が主語で、規則は「廃止する側」ではなく「廃止される側」です。したがって受動態が必要です。do away with の受動態は be done away with となり、with まで残します。文中には after the school reform があり、学校改革の後に規則が廃止されたという過去の出来事を表しているため、were done away with が適切です。① have done away with は現在完了の能動態で、「古い規則が廃止した」という不自然な意味になります。② must have done away with も能動態です。③ were done away with by は形としては途中まで受動態ですが、by の後に動作主が必要です。この文では動作主が示されていないため不完全です。したがって were done away with が正解です。

(109) 正解①: その容疑者は昨夜、アパートから走り出るところを目撃されました。

[解説] この問題は知覚動詞 see の受動態です。能動態では see O do「O が～するのを見る」という形を取り、原形不定詞 do を用います。たとえば Someone saw the suspect run out of the apartment house. なら、「誰かがその容疑者が走り出るのを見た」という意味です。これを受動態にすると、目的語 the suspect が主語になり、The suspect was seen to run out ... となります。知覚動詞の受動態では、能動態で消えていた to が復活する点が最大のポイントです。② ran は過去形で、was seen の後には置けません。③ run は原形で、能動態では使えますが受動態では to run にします。④ have run は完了形で、to もなく形が崩れています。したがって to run が正解です。

(110) 正解④: その少女は彼に歌うのを聞かれました。

[解説] hear O do は「O が～するのを聞く」という知覚動詞構文です。能動態では He heard the girl sing. のように、目的語 the girl の後に原形不定詞 sing を置きます。しかし、この構文を受動態にすると、目的語 the girl が主語になり、The girl was heard to sing by him. となります。see と同じく、知覚動詞の受動態では原形不定詞が to 不定詞に変わります。① sang は過去形で、was heard の後にそのまま置けません。② sung は過去分詞で、「歌われた」という意味を作る形ではありますが、この文では少女自身が歌ったので不適切です。

③ to be sung は「歌われる」という受動の意味になり、「少女が歌う」とは意味が変わります。したがって to sing が正解です。

(111) 正解④:メアリーは昨夜、その建物に入るところを見られました。

[解説]この文も知覚動詞 see の受動態です。能動態なら Someone saw Mary enter the building last night. となり、see O do「O が～するのを見る」の形を取ります。ここで enter は原形不定詞です。しかし受動態にすると Mary was seen to enter the building last night. となり、原形 enter が to enter に変わります。知覚動詞の受動態では to が復活する、という規則を必ず確認しておきましょう。① enter は能動態の see O enter では正しい形ですが、受動態では使えません。② have entered は完了形で、to もなく不適切です。③ in entering は前置詞+動名詞で、was seen の補語としては不自然です。したがって to enter が正解です。

(112) 正解②:その子どもは2階のソファで静かに眠っているところを見つけられました。

[解説]find O Ving は「O が～しているを見つける」という形です。元の文 They found the child sleeping quietly on the sofa upstairs. では、the child が目的語、sleeping quietly がその状態を説明する補語です。受動態にすると、目的語 the child が主語になり、The child was found sleeping quietly ... となります。ここでは「眠っている状態で見つかった」という意味なので、sleeping はそのまま残ります。① found sleeping は be 動詞がなく、受動態として不完全です。③ was found to sleep は「眠ることが分かった」という意味になり、実際に眠っている状態を発見したという原文の意味からずれます。④ was finding sleeping は能動態の進行形に近く、文法的にも不自然です。したがって was found sleeping が正解です。

できますが、200 語前後を厳守すると長大になるため、まずは (113)～(120) を出します。続けて残りも同じ密度で出します。

(113) 正解③:彼女が会うことに同意するまで、私は何か月も待たされました。

[解説]make O do は「O に～させる」という使役動詞の構文です。能動態では I was made の元になる形は She made me wait for months. のようになり、make の後では原形不定詞 wait を用います。しかし、make が受動態になると、原形不定詞に to が復活し、be made to do の形になります。したがって I was made to wait が正しい形です。① wait は能動態の make O wait では使えますが、受動態では to wait にしなければなりません。② being waited on は「給仕される・世話をされる」という別表現で、意味が合いません。④ waited は過去形・過去分詞であり、不定詞の働きをしません。使役動詞 make の受動態は、知覚動詞と同じく「to が復活する」と覚えるとよいでしょう。したがって to wait が正解です。

(114) 正解②:彼は自分の意思に反する行動をさせられました。

[解説]この問題も make O do の受動態です。go against one's will は「自分の意思に反する行動をする」という意味です。能動態では Someone made him go against his will. のように、make の後に原形不定詞 go を置きます。しかし、受動態では He was made to go against his will. となり、原形不定詞 go が to go に変わります。① go against his

will は原形のままで、受動態の was made の後には置けません。③ going against his will は現在分詞・動名詞で、make の受動態に続く形ではありません。④ gone against his will は過去分詞ですが、be made gone という形は成り立ちません。使役動詞 make は、能動態では make O do、受動態では O be made to do という変化が最重要です。したがって to go against his will が正解です。

(115) 正解②:選手たちは大きな試合の前に、より厳しく練習させられました。

[解説]元の文は The coach made the players practice harder before the big game. です。make O do は「Oに～させる」という使役構文で、能動態では目的語 the players の後に原形不定詞 practice が続きます。これを受動態にすると、目的語 the players が主語になり、The players were made to practice harder. となります。make の受動態では to が復活する点が重要です。① were made practice は to がなく、受動態として不完全です。③ made to practice は be 動詞 were がないため、受動態の述語になっていません。④ were practiced は「選手たちが練習された」という意味になり、practice を他動詞として扱う不自然な文になります。この問題は、使役動詞 make の受動態 be made to V を確認する典型問題です。したがって were made to practice が正解です。

(116) 正解③:彼は若いころ海外で勉強したと言われています。

[解説]They say that he studied abroad when he was young. を受動的に書き換える問題です。say that S V は、形式主語を使えば It is said that S V、人物を主語にすれば S is said to V の形になります。ただし、that 節の動詞 studied は、主節の is said よりも前の出来事を表しています。つまり「今そう言われている」が、「留学した」のは若いころの過去です。このように、主節より前の内容を表すときは完了不定詞 to have p.p. を使います。したがって He is said to have studied abroad が正解です。① to study は主節と同時、または未来の意味になり、過去の留学を表せません。② studying は分詞・動名詞で、この構文には使えません。④ having studied は分詞構文的な形で、is said の補語にはなりません。したがって to have studied が正解です。

(117) 正解③:彼は若いころに財産を築いたと信じられています。

[解説]believe that S V は、受動態では It is believed that S V または S is believed to V の形になります。この問題では「彼が若いころ財産を築いた」と信じられているので、he を主語にした He is believed to have made a fortune in his youth. が正しい文です。財産を築いたのは現在より前の出来事なので、to make ではなく完了不定詞 to have made を使います。① It is believed that he has made a fortune in his youth. は in his youth が過去を表すため、現在完了 has made と相性が悪く不自然です。② He is believed that ... は believe の受動態構文として誤りです。④ He is believed to make ... は「これから財産を築く／習慣的に築く」ようになり、過去の出来事を表せません。したがって③が正解です。

(118) 正解①:その計画は来年成功すると考えられています。

[解説]They think that the plan will succeed next year. を受動態に書き換える問題です。think that S V は、受動態では It is thought that S V または S is thought to V の形になります。この文では that 節の主語 the plan を主語にして、The plan is thought to succeed next year. とします。succeed は自動詞で「成功する」という意味なので、受動態にはせず、to succeed の形で残します。① is thought to succeed が正しい形です。② is thought succeed は to がなく、be thought to V の形になっていません。③ thought to succeed は be 動詞 is が欠けているため、受動態の述語として不完全です。④ is thinking to succeed は能動態で、「その計画が考えている」という不自然な意味になります。したがって is thought to succeed が正解です。

(119) 正解③:彼女は今日の午後、その会議に出席することを期待されています。

[解説]expect A to V は「AがVすることを期待する」という SVO to V 型の動詞です。この表現が受動態になると、A be expected to V の形になります。この文では She is expected まで与えられているので、後ろには to attend が必要です。attend the meeting は「会議に出席する」という意味で、attend は他動詞なので前置詞は不要です。① attend は原形で、expected の後に直接置くことはできません。② attending は動名詞・現在分詞で、この構文には合いません。④ attended は過去形・過去分詞で、「出席された」という意味にもならず不適切です。be expected to V は「Vすることになっている/Vすると期待されている」という頻出表現です。したがって to attend が正解です。

(120) 正解③:生徒たちは放課後、この部屋を使うことを許されています。

[解説]allow A to V は「AがVすることを許す」という意味です。受動態では A be allowed to V となります。この文では Students are allowed まで与えられているため、その後には to use が続きます。use this room は「この部屋を使う」という意味で、students が「使うことを許されている」内容を表しています。① use は原形で、allowed の後にそのまま置けません。② using は動名詞・現在分詞です。④ used は過去形・過去分詞で、この位置では不自然です。allow の受動態 be allowed to V は、入試・英作文ともに非常に頻出です。なお、日本語では「使ってもよい」と訳すと自然ですが、英語の構造上は「使うことを許されている」という受動態です。したがって to use が正解です。

(121) 正解②:私たちは常に校則に従うことになっています。

[解説]suppose A to V は「AがVすると考える・想定する」という意味ですが、受動態の be supposed to V は慣用的に「Vすることになっている」「Vすべきである」という意味で使われます。この文では We are supposed まで与えられているので、後ろには to 不定詞が必要です。したがって to follow school rules となります。follow rules は「規則に従う」という意味で、obey rules と同じように使えます。① follow は原形で、are supposed の後に直接置くことはできません。③ following は動名詞・現在分詞で、この構文には合いません。④ followed は過去形・過去分詞で、「従われた」という受動的な意味になってしまい、文意に合い

ません。be supposed to V は単なる受動態というより、「当然そうすることになっている」という決まり・義務を表す重要表現です。したがって to follow が正解です。

(122) 正解③:すべての訪問者は受付で名前を書くことを義務づけられています。

[解説]oblige A to V は「AにVすることを義務づける」という意味の SVO to V 型動詞です。これを受動態にすると、A be obliged to V となり、「AはVする義務がある」と訳します。この文では All visitors are obliged まで与えられているため、その後には to write が必要です。write their names at the desk は「受付で名前を書く」という意味です。① write は原形で、are obliged の後にそのまま続けることはできません。② writing は動名詞・現在分詞です。④ written は過去分詞で、「名前が書かれる」という受動的な意味になり、visitors が行うべき動作を表せません。be obliged to V は be required to V と同じく、規則や義務を表す硬めの表現です。したがって to write が正解です。

7-1 get 受動態

(123) 正解②:彼の脚は、トラックにひかれたときに折れました。

[解説]get + 過去分詞 は、be 動詞の受動態よりも「実際に被害・変化を受ける」という動きのある受動表現を作ります。run over A は「Aを車でひく」という句動詞で、受動態では A get run over / A is run over となります。この文では His leg was broken when he got run over by the truck. となり、「トラックにひかれたときに脚が折れた」という意味です。① overrun は「圧倒する・はびこる」などの意味で、車にひかれる意味では通常使いません。③ driven in は「打ち込まれる」などの意味で、文脈に合いません。④ hit on は「思いつく」「言い寄る」など別の意味になり、hit by なら可能ですが、ここでは選択肢として不適切です。句動詞 run over は受動態でも over を残します。したがって run over が正解です。

(124) 正解①:今夜は雨が降るでしょう。傘なしで雨に降られないようにしなさい。

[解説]get caught in the rain は「雨に降られる」という慣用的な get 受動態です。catch A in the rain は直訳すると「Aを雨の中に捕まえる」ですが、受動的に get caught in the rain とすると、「雨に遭う・雨に降られる」という自然な意味になります。この文では Don't get caught in the rain without an umbrella. で、「傘なしで雨に降られないように」という注意になります。② get in caught the rain は語順が崩れており、caught in the rain というまとまりになっていません。③ caught get in the rain も語順が文法的に成立しません。④ get the rain caught in は「雨を捕まえる」というような不自然な構造です。get + 過去分詞は、特に被害・不利益を受ける場面でよく使われます。したがって get caught in the rain が正解です。

解答解説(124~138)

(124) 正解①:傘なしで雨に降られないようにしなさい。

[解説]get caught in the rain は「雨に降られる」という決まった表現です。get + 過去分詞は、be 動詞の受動態よりも「実際に被害を受ける」「ある状態になる」という動きのある受動表現を作ります。ここでは Don't get caught in the rain without an umbrella. で、「傘なしで雨に降られないようにしなさい」という注意になります。② get in caught the rain は語順

が崩れており、caught in the rain というまとまりになっていません。③ caught get in the rain も語順が文法的に成立しません。④ get the rain caught in は「雨を捕まえる」のような不自然な構造です。したがって get caught in the rain が正解です。

(125) 正解②: その道路は大雪のため、1週間以上閉鎖されたままでした。

[解説] remain は「～のままである」という状態の継続を表す動詞で、後ろには形容詞や過去分詞が補語として続きます。この文では The road が主語で、「道路が閉鎖する」のではなく「閉鎖された状態のままである」という意味になります。close A は「Aを閉鎖する」という他動詞なので、road を主語にすると closed「閉鎖された」が適切です。① closing は現在分詞で、「閉じつつある」という進行的な意味になります。③ to close は不定詞で、remain の補語としてこの文には合いません。④ close は形容詞なら「近い」という意味になり、道路の状態を表せません。したがって closed が正解です。

(126) 正解②: 数分間、座ったままでいてください。

[解説] remain seated は「座ったままでいる」という重要表現です。seat A は「Aを座らせる」という他動詞で、seated は「座らされた状態の」「着席している」という状態を表す過去分詞形容詞です。Please remain seated. は飛行機や式典などでも使われる自然な表現です。① sat は sit の過去形・過去分詞ですが、remain sat とは通常言いません。③ seating は現在分詞で、「座らせている」という能動的な意味になります。④ to seat は不定詞で、「座らせるために」のような意味になり、この文の補語にはなりません。remain の後には状態を表す語が必要なので seated が最も自然です。したがって seated が正解です。

(127) 正解③: 長年使われた後、その古い看板は傷んで読みにくくなりました。

[解説] become は「～になる」という変化を表す動詞で、後ろには形容詞や過去分詞形容詞が続きます。damage A は「Aに損害を与える」という他動詞です。old sign は「傷つける側」ではなく「傷つけられる側」なので、damaged「傷んだ・損傷した」を用います。① damage は名詞または動詞原形で、became の後にそのまま置くことはできません。② damaging は「損害を与えるような」という能動的意味で、看板そのものの状態を表すには不適切です。④ damages は名詞の複数形または動詞の三単現で、補語にはなりません。after years of use から、長年の使用によって傷んだ状態になったと考えます。したがって damaged が正解です。

(128) 正解①: 暑さのため、そのドアは一晩中開いたままでした。

[解説] remain open は「開いたままである」という形容詞 open を用いた表現です。open は動詞「開ける」だけでなく、形容詞「開いている」としても使われます。この文では The door remained open all night. で、「ドアが一晩中開いている状態だった」という意味になります。② opened は過去分詞で「開けられた」という受動的な動作の結果を表すこともありますが、remain の後で単に状態を表す場合は open が自然です。③ opening は現在分詞で「開いている途中」という意味になり不自然です。④ opens は動詞の三単現で、補語にはなりません。状態の継続を表す remain には、状態形容詞 open が最も適切です。したがって open が正解です。

(129) 正解②:実験中、そのドアは施錠されたままでなければなりません。

[解説]stay は remain と同じく「～のままでいる」という状態の継続を表す動詞です。lock A は「Aに鍵をかける」という他動詞なので、door は「鍵をかける側」ではなく「鍵をかけられる側」です。したがって locked「施錠された状態の」を用いて stay locked とします。① lock は原形で、stay の後に補語として置くには不適切です。③ locking は現在分詞で、「鍵をかけている」という能動的な意味になります。④ to lock は不定詞で、目的や予定の意味になり、この文の状態補語にはなりません。during the experiment から、安全上、ドアが施錠された状態を保つ必要があると分かります。したがって locked が正解です。

(130) 正解③:その古い寺は国宝として知られるようになりました。

[解説]become known as A は「Aとして知られるようになる」という重要表現です。know A as B は「AをBとして知っている」という他動詞表現で、受動態では A is known as B となります。ここでは became が使われているため、「知られている状態になった」という変化を表します。① know は動詞原形で、became の後にそのまま置けません。② knowing は現在分詞で、「知っている」という能動的意味になり、temple が何かを知っていることになってしまいます。④ to know は不定詞で、become の補語として不適切です。as a national treasure は「国宝として」という意味なので、known as が自然です。したがって known が正解です。

(131) 正解②:彼はそのような少ない給料には満足しないでしょう。

[解説]satisfy A は「Aを満足させる」という他動詞です。人を主語にして「満足している」と言う場合は、受動態の形をした be satisfied with A を用います。この文では He will not の後が続くので、will not be satisfied with such a small salary が正しい形です。① satisfy with は、satisfy を自動詞のように使っており誤りです。③ be satisfied at は前置詞が不適切で、満足の対象には通常 with を用います。④ satisfy は能動態で、「彼が給料を満足させる」という不自然な意味になります。salary は満足の対象なので with を使います。したがって be satisfied with が正解です。

(132) 正解③:長いツアーの後、客たちは温かいお茶を提供されました。

[解説]provide A with B は「AにBを提供する」という重要表現です。この文では The guests were provided with hot tea. となり、「客たちは温かいお茶を提供された」という意味になります。受動態になっても、Bを導く前置詞 with は残ります。① of は provide のこの語法には合いません。② for は provide B for A の形では使われますが、ここでは主語が Aにあたる guests なので with が必要です。④ from も「～から」という意味で、提供物を表す前置詞にはなりません。provide は provide A with B と provide B for A の2型を整理して覚えるとよいでしょう。したがって with が正解です。

(133) 正解①:生徒たちは実験に必要なすべての材料を与えられました。

[解説]furnish A with B は「AにBを供給する・備えつける」という意味です。この文では The students were furnished with all the materials for the experiment. となり、「生徒たちは実験に必要な材料を与えられた」という受動態になります。furnish は

provide と同じく、A を主語にした受動態では with B を続けます。② of は furnish のこの語法では使いません。③ from は起点を表し、材料の提供内容には合いません。④ to は方向・相手を表す前置詞ですが、この文の「材料を備える」という意味には合いません。all the materials が提供されたものなので with が必要です。したがって with が正解です。

(134) 正解③:翌朝、地面は雪で覆われていました。

[解説]cover A with B は「A を B で覆う」という表現です。受動態では A is covered with B となり、「A が B で覆われている」という意味を表します。この文では The ground was covered with snow. で、「地面が雪で覆われていた」となります。① by は動作主を表す前置詞ですが、雪はここでは「覆う材料・状態」を表すため with が自然です。② from は起点・分離を表し、文意に合いません。④ of は材料や所属を表すことがありますが、cover の受動態では通常 with を用います。covered with snow / dust / leaves などは頻出表現です。したがって with が正解です。

(135) 正解①:彼の両親は彼の不注意な行動に満足していませんでした。

[解説]please A は「A を喜ばせる・満足させる」という他動詞です。人を主語にして「喜んでいる・満足している」と表す場合は、受動態の形をした be pleased with A を用います。この文では His parents were not pleased with his careless behavior. となります。① pleased は過去分詞形容詞で正解です。② pleasing は「人を喜ばせるような」という能動的意味で、主語の感情を表すには不適切です。③ please は動詞原形で、were の後に置けません。④ to please は不定詞です。with his careless behavior が感情の対象を示しているため、be pleased with の形が自然です。したがって pleased が正解です。

(136) 正解①:この小さな町は、伝統的な陶器や民俗音楽と密接に結びついています。

[解説]associate A with B は「A を B と結びつける」という意味です。受動態では A is associated with B となり、「A は B と関連している・結びついている」と訳します。この文では This small town is closely associated with traditional pottery and folk music. となります。② satisfied は「満足している」で、with は取れますが、町と陶器・音楽の関係を表せません。③ surprised は「驚いている」で、文脈に合いません。④ devoted は「献身している」で、通常 devoted to を用います。closely「密接に」があるため、「結びついている」を表す associated が最も自然です。したがって associated が正解です。

(137) 正解①:焼きたてのパンの香りは、しばしば子どものころの記憶と結びついています。

[解説]connect A with B は「A を B と結びつける」という意味です。受動態では A is connected with B となり、「A は B と関連している」と表します。この文では The smell of fresh bread is often connected with childhood memories. となります。② limited は「制限されている」で、通常 limited to を用いるため、with childhood memories とは合いません。③ filled は「満たされている」で、filled with なら形は可能ですが、香りが記憶で満たされているという意味になり不自然です。④ dressed は「服を着た」で、dressed in を使います。香りと記憶の心理的関連を表すには connected with が適切です。したがって connected が正解です。

(138) 正解①:この小説は批評家によって、しばしばその作家の初期作品と比較されます。

[解説]compare A with B は「A を B と比較する」という意味です。受動態では A is compared with B となります。この文では This novel is often compared with the writer's earlier works by critics. で、「この小説は批評家によって作家の初期作品と比較される」となります。② committed は「委ねられた・専念している」で、通常 committed to を用います。③ satisfied は「満足している」で、主語が小説なので不自然です。④ devoted は「献身している」で、devoted to の形を取ります。with the writer's earlier works が比較対象を示しているため、compare A with B の受動態が最も適切です。したがって compared が正解です。

解答解説(139~148)

(139) 正解②:彼の温かい笑顔を見て、私は祖父を思い出しました。

[解説]remind A of B は「A に B を思い出させる」という重要表現です。この文では I が主語ですが、「私が思い出させた」のではなく、「私が思い出させられた」という受動的な形になっています。したがって I was reminded of my grandfather by his warm smile. となります。日本語では「私は祖父を思い出した」と自然に訳しますが、英語では「彼の笑顔が私に祖父を思い出させた」という構造です。① from は「～から」を表しますが、remind の語法には合いません。③ with は「～で」を表しますが、思い出す対象には使いません。④ to は方向や到達点を表しますが、remind A to V「A に V するよう思い出させる」とは別構文です。ここでは「祖父を思い出す」なので of が必要です。したがって of が正解です。

(140) 正解①:私たちは正午前に予定変更を知らされました。

[解説]inform A of B は「A に B を知らせる」という意味です。この文では We が主語になっているので、「私たちが知らせた」のではなく「私たちが知らされた」という受動態です。したがって We were informed of the schedule change before noon. となります。日本語では「予定変更について知らされた」と訳すと自然です。① of は inform A of B の B を導く前置詞で、正しい形です。② from は「～から」を表しますが、inform の知らせる内容を導く前置詞ではありません。③ with は「～を備えて」「～とともに」を表し、schedule change という知らせの内容には合いません。④ at は場所や時点を表す前置詞で、情報内容を示せません。inform は about を使うこともありますが、文法問題では inform A of B が基本形です。したがって of が正解です。

(141) 正解①:その老人は泥棒に全財産を奪われました。

[解説]rob A of B は「A から B を奪う」という重要語法です。日本語では「お金を盗まれた」と言いますが、英語の rob は「人」を目的語に取り、「人から物を奪う」という構造になります。この文では The old man was robbed of all his money by the thief. となり、「老人が泥棒によって全財産を奪われた」という意味です。① of は rob A of B の B を導く前置詞なので正解です。② from は日本語の「～から」に引きずられやすい誤答ですが、rob の標準語法ではありません。steal money from him なら from を使います。③ with は道具や付帯を

表すため不適切です。④ at も場所や対象を表すだけで、奪われた物を示せません。rob 人 of 物、steal 物 from 人 の違いを整理しましょう。したがって of が正解です。

(142) 正解①:その事故のため、彼は再びプレーする機会を奪われました。

[解説]deprive A of B は「A から B を奪う」という意味です。元の文 The accident deprived him of the chance to play again. では、the accident が主語、him が目的語、the chance が奪われたものです。これを受動態にすると、目的語 him が主語になり、He was deprived of the chance to play again. となります。① was deprived of は be 動詞+過去分詞+of の正しい受動態です。② was deprived from は from を使っており、deprive の語法に合いません。③ deprived of は be 動詞がなく、受動態として不完全です。④ was depriving of は過去進行形の能動態で、「彼が奪っていた」という意味になってしまいます。deprive は rob と同じく of を伴う動詞です。権利・機会・自由などを奪う場合によく使われます。したがって was deprived of が正解です。

(143) 正解④:長い調査の後、彼はすべての疑いを晴らされました。

[解説]clear A of B は「A から B を取り除く」「A の B を晴らす」という意味です。特に clear A of suspicion は「A の疑いを晴らす」という形でよく使われます。この文では He was cleared of all suspicion after the long investigation. となり、「長い調査の後、彼はすべての疑いを晴らされた」という意味になります。① from は「～から」という意味なので一見合いそうですが、clear A of B の決まった語法ではありません。② with は「～とともに」「～で」を表し、疑いを取り除く対象には使いません。③ at は場所や時点を表すため不適切です。④ of は、取り除かれるもの・晴らされるものを示す前置詞として必要です。rob A of B、deprive A of B、clear A of B は、いずれも of を残す受動態としてまとめて覚えると効果的です。したがって of が正解です。

(144) 正解③:彼は事務机からお金を取ったことで告発されました。

[解説]accuse A of B / Ving は「A を B のことで非難する・告発する」という意味です。この文では He was accused of taking money from the office desk. となり、「彼はお金を取ったことで告発された」という受動態です。of の後ろには名詞だけでなく動名詞 taking を置くことができます。① from は「～から」という意味ですが、accuse の語法には合いません。② with は charge A with B「A を B の罪で告発する」では使いますが、accuse には通常 of を用います。④ to は方向や不定詞を導く前置詞で、告発内容を表せません。accuse A of B と charge A with B は混同しやすいので、対にして覚えるとよいです。ここでは accuse が使われているため of が必要です。したがって of が正解です。

8-3 be 過去分詞 for B 型

(145) 正解②:その若い科学者は独創的な研究で賞賛されました。

[解説]admire A for B は「B のことで A を賞賛する」という意味です。この文では The young scientist が主語になっており、「賞賛する側」ではなく「賞賛される側」です。したがって受動態になり、The young scientist was admired for her original research. となり

ます。for は、賞賛・非難・感謝などの理由を表す前置詞として使われます。① to は方向や到達点を表しますが、「研究のことで賞賛される」という理由を表せません。③ with は道具や付帯を表し、admire の理由には使いません。④ of は accuse A of B などでは使いますが、admire には合いません。admire A for B、praise A for B、respect A for B は、理由を for で示す型としてまとめて整理できます。したがって for が正解です。

(146) 正解①:彼は緊急時の勇敢な行動をほめられました。

[解説]praise A for B は「B のことで A をほめる」という意味です。この文では He was praised for his brave action during the emergency. となり、「彼は緊急時の勇敢な行動のことでほめられた」という受動態です。for はここで理由を表しています。① for が正しい前置詞です。② to は方向や相手を示しますが、ほめられる理由には使いません。③ with は「〜で」「〜とともに」を表し、praise の理由には不自然です。④ from は起点や分離を表すため文意に合いません。praise と admire はともに「ほめる・賞賛する」という意味で、受動態では be praised for、be admired for の形を取ります。for の後には行為・性質・成果など、賞賛の理由が置かれます。したがって for が正解です。

(147) 正解③:その小さな村は美しい古い家々で有名です。

[解説]be famous for B は「B で有名である」という形容詞表現です。これは厳密には受動態ではありませんが、be 過去分詞+前置詞型と並んで頻出する重要表現です。この文では The small village is famous for its beautiful old houses. となり、「その村は美しい古い家々で有名だ」という意味になります。③ for は「有名である理由・特徴」を表します。① to は「〜に知られている」という be known to では使えますが、famous には通常使いません。② as は「〜として」を表し、famous as a tourist spot のように肩書き・立場を示します。④ with は付帯や道具を表し、famous の標準的な前置詞ではありません。be known for、be famous for は「〜で有名だ」と訳せる表現として一緒に覚えるとよいです。したがって for が正解です。

(148) 正解②:彼女は正直さと親切さで尊敬されています。

[解説]respect A for B は「B のことで A を尊敬する」という意味です。この文では She is respected for her honesty and kindness. となり、「彼女は正直さと親切さのゆえに尊敬されている」という受動態です。for は尊敬される理由を表します。① to は方向や相手を表す前置詞で、尊敬の理由にはなりません。③ with は道具や付帯を表し、respect の理由には不適切です。④ of は accuse A of B などでは使いますが、respect には合いません。respect は「尊敬する」という他動詞で、人を目的語に取ります。受動態では be respected by 人「人に尊敬される」もありますが、理由を表す場合は be respected for B となります。admired for、praised for、respected for をセットで覚えると安定します。したがって for が正解です。

解答解説(149~153)

(149) 正解①:病気の拡大を防ぐため、患者たちはほかの人々から隔離されました。

[解説]separate A from B は「A を B から離す・分離する」という意味です。この文では

The patients が主語になっていますが、患者たちは「分離する側」ではなく「分離される側」です。したがって受動態になり、The patients were separated from the other people となります。from は「分離・隔離の起点」を表す前置詞で、separate と強く結びつきます。① separated from が正しい形です。② separated to は方向を表す to を使っており、「～から離す」という意味になりません。③ separated with は「～とともに分けられた」のように不自然です。④ separated of は separate の語法に合いません。to prevent the disease from spreading は「病気が広がるのを防ぐために」という目的を表しています。separate A from B, protect A from B, prevent A from Ving など、from が「離す・防ぐ」感覚を表す表現をまとめて覚えるとよいでしょう。したがって separated from が正解です。

(150) 正解①: その小さな島は嵐によって本土から孤立しました。

[解説] isolate A from B は「A を B から孤立させる・隔離する」という意味です。この文では The small island が主語で、島は「孤立させる側」ではなく「孤立させられる側」です。したがって受動態になり、The small island was isolated from the mainland by the storm. となります。from the mainland は「本土から」という分離の起点を表します。① from が正解です。② to は方向・到達点を表す前置詞で、「本土から切り離される」という意味にはなりません。③ with は「～とともに」「～で」を表し、孤立の起点を示せません。④ of は所属や内容を表すことができますが、isolate の標準的な前置詞ではありません。by the storm は動作主・原因を表し、「嵐によって孤立した」と理解できます。isolate は separate と同じく from を伴う動詞として整理しておくといえます。したがって from が正解です。

(151) 正解①: その大きな音のため、その赤ちゃんは一晩中眠ることができませんでした。

[解説] keep A from Ving は「A が V するのを妨げる」という重要表現です。元の文 The loud noise kept the baby from sleeping through the night. では、The loud noise が主語、the baby が目的語、from sleeping が「眠ることから妨げた」内容です。これを受動態にすると、目的語 the baby が主語になり、The baby was kept from sleeping through the night. となります。① was kept from sleeping が正しい形です。② was kept to sleep は keep A to V という誤った形で、意味も「眠るように保たれた」ようになってしまいます。③ kept from sleeping は be 動詞がなく、受動態として不完全です。④ was keeping from sleeping は過去進行形の能動態で、「赤ちゃんが妨げていた」という不自然な意味になります。prevent A from Ving, stop A from Ving, keep A from Ving は受動態で頻出です。したがって was kept from sleeping が正解です。

(152) 正解②: 大雨のため、私たちはサッカーをすることを妨げられました。

[解説] prevent A from Ving は「A が V するのを妨げる」という意味です。この文では We were prevented from playing soccer because of the heavy rain. となり、「私たちは大雨のためサッカーをすることを妨げられた」となります。主語 We は妨げる側ではなく、妨げられる側なので受動態です。② from playing が正解です。① of playing は prevent の語法ではありません。③ with playing も「～で」という道具・付帯の意味になり、妨害された動作を表せません。④ to play は日本語の「～することを」に引きずられやすい誤答ですが、

prevent は to 不定詞ではなく from Ving を取ります。because of the heavy rain は妨害の原因を表しています。prevent、stop、keep、discourage は from Ving と結びつくことが多いため、受動態でも from を残すことが大切です。したがって from playing が正解です。

(153) 正解①:彼女は両親に海外で勉強することを思いとどまらされました。

[解説]discourage A from Ving は「A が V するのを思いとどまらせる」という意味です。この文では She was discouraged from studying abroad by her parents. となり、「彼女は両親によって海外で勉強することを思いとどまらされた」と訳します。主語 She は思いとどまらせる側ではなく、思いとどまらせられる側なので受動態です。① from studying が正しい形です。② of studying は discourage の語法に合いません。③ with studying は「勉強することとともに」のようになり不自然です。④ to study は encourage A to V「A に V するよう励ます」と混同しやすい誤答です。encourage は to V、discourage は from Ving と整理すると覚えやすいです。abroad は「海外で」という副詞なので、study abroad で「海外で勉強する」となります。したがって from studying が正解です。

解答解説(154~163)

(154) 正解①:彼の成功は努力のおかげだと考えられました。

[解説]attribute A to B は「A を B に帰する」「A は B のおかげだと考える」という意味です。元の文 Many people attributed his success to hard work. では、his success が attribute の目的語で、hard work が原因・理由として示されています。これを受動態にすると、目的語 his success が主語になり、His success was attributed to hard work. となります。① attributed to が正しい形です。② attributed with は attribute の標準的な語法ではありません。③ attributed from は「～から帰する」のような形で不自然です。④ attributed for も理由を表す for に引きずられた誤答ですが、attribute は to を用います。日本語では「努力のおかげだとされた」と訳すと自然です。attribute A to B は、cause や reason を表す抽象名詞と相性がよく、受動態で非常によく出題されます。したがって attributed to が正解です。

(155) 正解①:その椅子の高さは子どもの体格に合わせて調整されました。

[解説]adjust A to B は「A を B に合わせて調整する」という意味です。この文では The height of the chair が主語になっていますが、高さは「調整する側」ではなく「調整される側」です。したがって受動態になり、The height of the chair was adjusted to the child's size. となります。① adjusted to が正しい形です。② adjusted with は「～を使って調整された」のように道具を表す場合なら考えられますが、この文の the child's size は調整の基準なので with ではありません。③ adjusted from は「～から調整された」という起点の意味になり不自然です。④ adjusted of は adjust の語法に合いません。to はここで「基準・適先」を表し、「子どものサイズに合わせて」という意味を作ります。adjust A to B、adapt A to B などは to を伴う表現として整理しておくといえます。したがって adjusted to が正解です。

(156) 正解④:彼女は有名な作家と結婚しました。

[解説]marry A は「Aと結婚する」という他動詞なので、本来は She married a famous writer. のように前置詞なしで使います。しかし get married は「結婚する」という状態変化を表す表現で、相手を示すときは get married to A となります。したがって She got married to a famous writer. が正しい書き換えです。① on は日付や接触を表す前置詞で、結婚相手には使いません。② between は「～の間に」を表し、二者関係の名詞を続ける場合に使用しますが、get married between とは言いません。③ for は目的や期間を表すため、結婚相手を示せません。④ to は結びつく相手を表し、be married to A / get married to A の形で用いられます。marry A には前置詞不要、be married to A には to が必要という違いを押さえましょう。したがって to が正解です。

(157) 正解③:彼は困っている子どもたちを助けることに深く献身しています。

[解説]be devoted to A は「Aに献身している」「Aに専念している」という重要表現です。devote A to B は「AをBに捧げる」という他動詞表現で、受動態・形容詞化した形が be devoted to B です。この文では He is deeply devoted to helping children in need. となります。to は前置詞なので、後ろには名詞または動名詞 helping が続きます。① for は理由や目的を表しますが、devoted の標準的な前置詞ではありません。② with は付帯や道具を表し、献身の対象を示せません。④ of も devote の語法には合いません。helping children in need は「困っている子どもたちを助けること」という動名詞句です。be devoted to Ving は、to 不定詞と間違えやすいので注意が必要です。したがって to が正解です。

(158) 正解①:彼女は地域の環境を守ることに熱心に取り組んでいます。

[解説]be committed to A は「Aに専念している」「Aに本気で取り組んでいる」という表現です。commit A to B は「AをBに委ねる・専念させる」という意味で、受動的な形から be committed to B という形が生まれます。この文では She is committed to protecting the local environment. となります。to は前置詞なので、後ろには動名詞 protecting が続きます。② for は理由や目的を表す前置詞ですが、committed の対象を表す標準形ではありません。③ with は「～とともに」「～で」を表し、取り組む対象には使いません。④ of も commit の語法に合いません。be devoted to Ving と同じく、be committed to Ving では to の後ろが動詞原形ではなく動名詞になる点が重要です。したがって to が正解です。

(159) 正解②:この規則は生徒の安全と密接に関係しています。

[解説]be related to A は「Aに関係している」という重要表現です。relate A to B は「AをBと関連づける」という他動詞表現で、受動態では A is related to B となります。この文では This rule is closely related to the safety of students. で、「この規則は生徒の安全と密接に関係している」という意味になります。① for は理由や目的を表しますが、関連の対象を示す前置詞としては不適切です。③ with は connected with のような表現では使えませんが、related の標準的な前置詞は to です。④ of は所有や部分関係を表しますが、「安全に関係している」とはなりません。closely は「密接に」という副詞で、related to の結びつきを強

めています。be connected with と be related to の前置詞の違いも整理しましょう。したがって to が正解です。

- (160) 正解③:子どもたちはオンラインで有害な情報にさらされました。

[解説]expose A to B は「A を B にさらす」という意味です。受動態では A be exposed to B となります。この文では The children were exposed to harmful information online. となり、「子どもたちはオンラインで有害な情報にさらされた」という意味になります。① for は理由や目的を表しますが、さらされる対象を示す前置詞ではありません。② with は道具・付帯を表し、exposed の標準的な語法には合いません。④ by は受動態の動作主を示す前置詞ですが、この文では harmful information が動作主ではなく、さらされる対象・環境です。expose A to danger / sunlight / information のように、to の後には影響を受ける対象や状況が置かれます。受動態でも to を残して be exposed to B とする点が重要です。したがって to が正解です。

- (161) 正解①:このセンターは地域の芸術家を支援することに専念しています。

[解説]be dedicated to A は「A に専念している」「A にささげられている」という表現です。dedicate A to B は「A を B にささげる」という意味で、受動態・形容詞化して be dedicated to B となります。この文では This center is dedicated to supporting local artists. となります。to は前置詞なので、後ろには動名詞 supporting が続きます。② limited は be limited to A「A に制限されている」という意味で、supporting local artists とは文脈が合いにくいです。③ related は be related to A「A に関係している」ですが、「支援に関係している」より「支援に専念している」の方が自然です。④ exposed は be exposed to A「A にさらされている」で意味が合いません。目的・使命を表す文脈では dedicated が最適です。したがって dedicated が正解です。

- (162) 正解①:この区域への立ち入りは、許可された職員だけに制限されています。

[解説]be limited to A は「A に限られている・制限されている」という表現です。limit A to B は「A を B に制限する」という他動詞表現で、受動態では A is limited to B となります。この文では Access to this area is limited to authorized staff only. となり、「この区域への立ち入りは許可された職員だけに限られている」という意味です。② banned は「禁止されている」ですが、be banned from A の形を取るため、to authorized staff only とは合いません。③ allowed は「許可されている」ですが、access is allowed to staff なら別構造になります。④ recognized は「認識されている」で意味が合いません。only があることから、範囲を限定する limited が適切です。be limited to 名詞は入試でも頻出です。したがって limited が正解です。

- (163) 正解①:このコンピューターは常に本社のネットワークに接続されています。

[解説]connect A to B は「A を B に接続する」という意味です。受動態では A is connected to B となります。この文では This computer is always connected to the main office network. となり、「このコンピューターは常に本社ネットワークに接続されている」という意味です。① connected が正解です。② used は「使われている」という意味です

が、to the network と自然につながりません。③ monitored は「監視されている」で、to ではなく by などと結びつくことが多く、この文脈には合いません。④ checked は「点検されている」で、ネットワークへの接続を表せません。connect は with を使う場合もありますが、機械・回線・ネットワークに「接続する」場合は connect A to B が自然です。always があるため、恒常的に接続されている状態を表しています。したがって connected が正解です。

解答解説(164～173)

(164) 正解④:彼女の名前はこの地域のみんなに知られています。

[解説]be known to A は「Aに知られている」という意味です。この文では Her name is known to everybody in this community. となり、「彼女の名前はこの地域の全員に知られている」と訳します。know A は「Aを知っている」という他動詞ですが、受動態になると「知られている」という状態を表します。① with は「～とともに」「～を用いて」を表す前置詞で、知られている相手を示すことはできません。② for は be known for A「Aで有名である」の形で使い、評判・理由・特徴を表します。③ when は接続詞・疑問詞であり、前置詞として名詞 everybody を導けません。④ to は「知られている相手」を表すため、この文に最も適切です。be known to 人「人に知られている」、be known for 物事「物事で有名だ」、be known as 肩書き「～として知られる」を区別しましょう。したがって to が正解です。

(165) 正解②:彼の名前は私たちの町みんなに知られています。

[解説]この問題も be known to A「Aに知られている」を問う問題です。His name is known to everyone in our town. で、「彼の名前は私たちの町みんなに知られている」という意味になります。主語 His name は「知っている側」ではなく「知られている側」なので、受動態の形をした is known が使われています。① for は「～で有名である」という理由・特徴を表します。たとえば He is known for his kindness. なら「彼は親切なことで知られている」です。③ with は付帯や道具を表し、「人に知られている」の意味にはなりません。④ in は場所を表すことはできますが、known in everyone とは言えません。everyone という「知られている相手」を導くには to が必要です。be known to 人は、受動態の基本である by ではなく to を用いる点も重要です。したがって to が正解です。

(166) 正解①:このセンサーは、情報を得る手段として誰にでも知られています。

[解説]This sensor is known to everybody as a means of obtaining information. という文です。ここでは known to everybody「みんなに知られている」と、known as a means「手段として知られている」の二つの要素が組み合わさっています。空所の後ろに everybody があるため、まず「誰に知られているか」を表す be known to A が必要です。① to が正解です。② for は be known for A「Aで有名である」という理由・特徴を表す場合に使用しますが、everybody という人を導くことはできません。③ at は場所や時点を表す前置詞で、known at everybody とは言いません。④ with は「～とともに」「～で」を表し、知られている相手を表すことはできません。後半の as a means of obtaining information は「情報を得る手段として」という意味で、as は役割・資格を表します。known to 人、known as 役割を正確に分けて理解しましょう。したがって to が正解です。

(167) 正解①:彼は偉大な音楽家として知られています。

[解説]be known as A は「Aとして知られている」という意味です。この文では He is known as a great musician. となり、「彼は偉大な音楽家として知られている」と訳します。as は「～として」という資格・立場・肩書きを表します。① as が正解です。② for は be known for A「Aで有名である」という形で、理由・特徴・業績を表します。たとえば He is known for his beautiful songs. なら「彼は美しい歌で知られている」です。③ to は be known to 人「人に知られている」の形で、知られている相手を示します。④ with は付帯や道具を表すため、known の標準的な用法には合いません。この問題では a great musician が「彼の立場・呼び名」を表しているため、as が必要です。known to, known for, known as は意味がすべて異なるため、前置詞ごとに整理しておきましょう。したがって as が正解です。

(168) 正解①:富士山は日本語で「富士山」と呼ばれています。

[解説]この文は Mt. Fuji is called as “Fujisan” ではなく、Mt. Fuji is called “Fujisan” in Japanese. の形にするのが自然です。call A B は「AをBと呼ぶ」という SVOC 文型で、受動態では A is called B となります。つまり補語 B の前に as は不要です。① called が正解です。② known を使う場合は is known as “Fujisan” のように as が必要ですが、この文では空所の後に as がすでにあるため、known as as になってしまい不適切です。③ named は「名づけられた」という意味で使えますが、named as より named “Fujisan” が自然です。④ referred は refer to A as B「AをBと呼ぶ」という形で使うため、この文なら referred to as が必要です。空所の後に as がある点は少し紛らわしいですが、選択肢の中では called が最も自然です。したがって called が正解です。

(169) 正解②:私たちの市はその美しさで世界中に知られています。

[解説]be known for A は「Aで有名である」「Aのために知られている」という意味です。この文では Our city is known for its beauty all over the world. となり、「私たちの市はその美しさで世界中に知られている」と訳します。its beauty はその市が有名である理由・特徴です。① by は受動態の動作主を示す前置詞ですが、「美しさによって知られている」というより「美しさで有名だ」と言う場合は for が自然です。③ in は場所や範囲を表しますが、理由を示せません。④ to は be known to 人「人に知られている」の形で使いますが、its beauty は人ではなく特徴です。be known for 名詞 は、be famous for 名詞 とほぼ同じ意味で用いられます。known to 人、known as 立場、known for 理由・特徴の違いを意識しましょう。したがって for が正解です。

(170) 正解④:人は付き合う仲間によって判断される。

[解説]A man is known by the company he keeps. はことわざ的な表現で、「人はその交わる仲間によって知られる」「付き合う仲間を見ればその人が分かる」という意味です。ここでの by は「判断の手がかり・基準」を表します。the company he keeps は「彼が付き合っている仲間」という意味で、company は「会社」ではなく「交際・仲間」を表しています。① to は be known to 人「人に知られている」の形で使いますが、この文では company が「知られてい

る相手」ではありません。② for は「～で有名だ」という理由・特徴を表しますが、このことわざでは判断の基準を示す by が必要です。③ as は「～として知られている」という肩書き・立場を表します。④ by は「～によって判断される」という意味を作り、文脈に最も合います。known by は「～によって分かる・識別される」と考えるとよいです。したがって by が正解です。

9-2 be made of / from / into

(171) 正解①:この机は木でできていますが、これらのブドウはワインにされます。

[解説]be made of A は「A でできている」という意味で、材料が見た目から分かる場合に使います。この文では desk「机」は木でできており、完成品を見ても材料の wood が分かるので made of wood が適切です。一方、後半の these grapes are made into wine は「ブドウがワインに加工される」という意味で、原料が別の製品に変化する場合の made into が使われています。② made from は、紙が木から作られる、ワインがブドウから作られるように、原料が加工されて形を変える場合に使います。③ made into は「～に作り変えられる」という意味なので、desk is made into wood では意味が逆です。④ made by は「～によって作られる」という製作者を表します。机の材料を表すには made of が必要です。したがって made of が正解です。

(172) 正解②:紙はふつう木から作られます。

[解説]be made from A は「A から作られる」という意味で、原料が加工されて元の形が分かりにくい場合に使います。紙は木を加工して作られるため、完成した paper を見ても wood の形は残っていません。したがって Paper is usually made from wood. が正解です。① of は be made of A「A でできている」で、材料が見た目から分かる場合に使います。木製の机なら made of wood ですが、紙は木そのものの形を保っていないので from が自然です。③ into は「～へ作り変えられる」という変化後の製品を表すため、made into paper なら「木が紙にされる」という形で使えます。④ by は製作者・動作主を表し、「木によって作られる」とは言えません。made of と made from の違いは頻出です。原料が見えるなら of、変化して見えにくいなら from と覚えましょう。したがって from が正解です。

(173) 正解③:この地域では、これらのブドウはワインに加工されます。

[解説]be made into A は「A に作り変えられる・加工される」という意味です。この文では These grapes are made into wine in this region. となり、「これらのブドウはこの地域でワインに加工される」と訳します。grapes が原料で、wine が加工後の製品です。① of は「～でできている」という材料を表しますが、grapes are made of wine では「ブドウがワインでできている」という逆の意味になってしまいます。② from は「～から作られる」で、Wine is made from grapes. なら正しいですが、この文では主語が grapes なので、変化後の製品 wine を示す into が必要です。④ by は製作者・動作主を表し、「ワインによって作られる」となり不自然です。made from は原料、made into は完成品を示すと整理すると分かりやすいです。したがって into が正解です。

解答解説(174～180)

(174) 正解②:彼女は帰宅の途中でにわか雨にあいました。

[解説]be caught in a shower は「にわか雨にあう」という決まった表現です。catch は本来「捕まえる」という他動詞ですが、be caught in ~ になると「～に巻き込まれる」「～にあう」という意味になります。この文では She was caught in a shower on her way home. となり、「彼女は帰宅途中ににわか雨にあった」と訳します。① a shower in は語順が誤りです。in a shower というまとまりで「にわか雨の中に」という意味を作ります。③ on a shower は on の使い方が不自然です。④ by a shower in は by と in の位置が崩れており、標準的な表現ではありません。rain ではなく shower は「にわか雨」を表します。be caught in a shower / be caught in the rain はどちらも頻出です。したがって in a shower が正解です。

(175) 正解④:私は学校から帰る途中でにわか雨にあいました。

[解説]be caught in a shower は「にわか雨にあう」という慣用表現です。この文では I was caught in a shower on my way back home from school. となります。caught は catch の過去分詞で、直訳すると「にわか雨の中に捕まえられた」となりますが、日本語では「にわか雨にあった」と自然に訳します。① for は理由や目的を表す前置詞で、「にわか雨にあう」の意味にはなりません。② with は「～とともに」「～を持って」を表し、雨に巻き込まれる状況を表せません。③ by は受動態の動作主を表しますが、a shower は人のような動作主ではなく、巻き込まれた状況です。④ in は「雨の中にいる」という状態を表し、caught と結びついて「雨にあう」という意味になります。したがって in が正解です。

(176) 正解①:私は学校から帰る途中でにわか雨にあいました。

[解説]この問題も be caught in a shower の表現を問うものです。catch A in B は「AをBの中で捕まえる」という意味ですが、受動態の be caught in B では「Bに巻き込まれる」「Bにあう」という意味になります。I was caught in a shower on my way home from school. で、「私は学校から家に帰る途中でにわか雨にあった」となります。① in が正解です。② for は目的・理由を表しますが、雨の中に入ってしまった状況を表せません。③ on は「～の上に」「～に接して」を表し、shower とは結びつきません。④ at は地点を表す前置詞ですが、「雨にあう」の意味にはなりません。be caught in a shower は、be caught in the rain と同じく、熟語として覚えておくべき表現です。したがって in が正解です。

(177) 正解③:私たちは途中でにわか雨にあいました。

[解説]この文では We were caught in a shower on the way. の形が正解です。be caught in a shower は「にわか雨にあう」という慣用表現です。空所には caught in が入る必要があります。① caught だけでは、その後の a shower と直接つながらず、「にわか雨にあった」という意味を作れません。② caught at は「～で捕まえられた」のようになり、雨に巻き込まれる意味にはなりません。③ caught in は正しい形で、in a shower が「にわか雨の中に」という状況を表します。④ caught with は「～を持っているところを捕まる」という意味になりやすく、文意に合いません。on the way は「途中で」という意味です。受動態の形をした慣用

表現は、日本語では能動的に「雨にあった」と訳すことが多いので注意しましょう。したがって caught in が正解です。

- (178) 正解④:正直に言うと、私はあなたの話にあまり興味がありません。

[解説]be interested in A は「Aに興味がある」という重要表現です。interest は「興味を持たせる」という他動詞で、ものが人に興味を起こさせると考えます。したがって、人を主語にして「興味がある」と言う場合は、受動態の形をした interested を用います。この文では I'm not much interested in your story. となり、「私はあなたの話にあまり興味がない」と訳します。① interest は名詞または動詞原形で、am の後にそのまま置けません。② interesting は「興味深い」という意味で、物事を主語にするときに使います。たとえば Your story is interesting. です。③ interestingly は副詞で、「興味深いことに」という意味になります。④ interested は人の感情状態を表す過去分詞形容詞です。in your story が興味の対象を示しているため、interested が正解です。

- (179) 正解③:私はステレオを売りたいのですが、誰もそれを買うことに興味を示していません。

[解説]be interested in Ving は「Vすることに興味がある」という表現です。to buy ではなく in buying になる点が重要です。この文では nobody is interested in buying it. となり、「誰もそれを買うことに興味がない」となります。① for buying は「買うために」という目的のような意味になり、interested の標準的な語法ではありません。② on buying も不自然で、interest の対象を示す前置詞にはなりません。③ in buying が正しい形です。in は前置詞なので、その後ろには動詞の原形ではなく動名詞 buying を置きます。④ to buy は日本語の「買うこと」に引きずられやすい誤答ですが、be interested to V は「Vして興味を持つ／知って興味深く思う」のような別用法になり、この文では不適切です。したがって in buying が正解です。

- (180) 正解②:ケン Gitar の練習に夢中でした。

[解説]be absorbed in A は「Aに夢中である・Aに没頭している」という重要表現です。absorb A in B は「AをBに吸収する・没頭させる」という意味で、受動態の形になって be absorbed in B「Bに没頭している」となります。この文では Ken was absorbed in practicing the guitar. となり、「ケン Gitar の練習に夢中だった」と訳します。① at は場所や一点を表す前置詞で、absorbed の対象を示す標準的な形ではありません。③ on は「～の上に」「～に関して」を表しますが、be absorbed on とは通常言いません。④ for は理由や目的を表すことが多く、「練習に没頭する」という意味にはなりません。in は「その中に入り込む」という感覚から、没頭の対象を表します。be interested in, be involved in, be absorbed in はセットで覚えるとよいです。したがって in が正解です。

- (181) 正解①:多くの高校生がボランティア活動に積極的に関わっています。

[解説]be involved in A は「Aに関わっている・参加している」という重要表現です。involve A in B は「AをBに関わらせる」という他動詞表現で、それが受動態の形になって be involved in B「Bに関わっている」となります。この文では Many high school students are actively involved in volunteer work. となり、「多くの高校生がボランテ

ィア活動に積極的に関わっている」と訳します。① involved は過去分詞形容詞として正しく使われています。② giving は「与えている」という現在分詞で、in volunteer work と自然につながりません。③ joined は「参加した」という過去分詞ですが、join は通常 join a club のように直接目的語を取るため、joined in volunteer work はこの文では不自然です。④ participated は participate in A の形を取りますが、are participated in とは通常言いません。actively があることから、活動への関与を表す involved が最も適切です。したがって involved が正解です。

(182) 正解③:トムは黒いスーツを着ていました。

[解説]be dressed in A は「Aを着ている」という意味です。dress A in B は「AにBを着せる」という他動詞表現で、受動態の形になると A be dressed in B「AはBを着ている」となります。この文では Tom was dressed in a dark suit. となり、「トムは黒っぽいスーツを着ていた」と訳します。① dressing は現在分詞で、Tom was dressing なら「トムは服を着ているところだった」となりますが、後ろに a dark suit を直接続ける形ではありません。② to dress by は不定詞と by の組み合わせが不自然です。④ dressed for は「～にふさわしい服装をしている」「～のために着飾っている」の意味になり、a dark suit という服そのものを導くには合いません。服装を表すときは be dressed in 色・衣服 の形が基本です。したがって dressed in が正解です。

(183) 正解②:その冬の戦闘で、何千人もの兵士が殺されました。

[解説]kill A は「Aを殺す」という他動詞です。この文では Thousands of soldiers が主語ですが、兵士たちは「殺す側」ではなく「殺される側」です。したがって受動態が必要で、were killed in the battle が正しい形になります。① killing は現在分詞で、were killing なら「兵士たちが殺していた」という能動の進行形になります。③ kill は動詞の原形で、were の後に置いて受動態を作ることはできません。④ to kill は不定詞で、この文の述語にはなりません。in the battle は「その戦闘で」という出来事・状況を表します。日本語では「戦死した」と訳しても自然ですが、英語では soldiers were killed のように受動態で表すことが多いです。事故・災害・戦争などで命を落とす表現では、be killed が頻出です。したがって killed が正解です。

(184) 正解③:その将校は夜明けの攻撃で重傷を負いました。

[解説]wound A は「Aを負傷させる」という他動詞です。この文では The officer が主語ですが、将校は「負傷させる側」ではなく「負傷させられる側」、つまり「負傷した人」です。したがって受動態の was wounded を用います。seriously は「重く・深刻に」という副詞で、wounded を修飾しています。① wound は動詞の原形または名詞で、was seriously の後にそのまま置くことはできません。② wounding は現在分詞で、was wounding なら「負傷させていた」という能動的な意味になります。④ to wound は不定詞で、ここでは述語の一部として不適切です。in the attack at dawn は「夜明けの攻撃で」という状況を表します。日本語では「負傷した」と能動的に訳しますが、英語では「負傷させられた」と考えて be wounded を使います。したがって wounded が正解です。

(185) 正解①:彼女は長い間、自分の町でボランティア活動に携わってきました。

[解説]be engaged in A は「Aに従事している・携わっている」という重要表現です。engage A in B は「AをBに従事させる」という他動詞表現で、受動態の形になって A be engaged in B となります。この文では She has long been engaged in volunteer work in her town. となり、「彼女は長い間、町のボランティア活動に携わってきた」と訳します。has long been があるため、過去から現在まで続く状態を表しています。① engaged は過去分詞形容詞として正しく使われています。② engaging は「人を引きつける」という意味の形容詞、または現在分詞で、この文の意味に合いません。③ engage は動詞原形で、has been の後には置けません。④ to engage は不定詞で、be engaged in の形ではありません。volunteer work に「関わっている」状態を表すには engaged in が最も自然です。したがって engaged が正解です。

(186) 正解①:彼は考えにふけりすぎて、降りる停留所を乗り過ごしました。

[解説]be lost in thought は「物思いにふけている」という決まった表現です。lose A in B は「AをBの中で失わせる」という意味ですが、be lost in thought では「考えの中に入り込んでいる」「考えに没頭している」という状態を表します。この文では He was so lost in thought that he missed his stop. となり、「彼は考えにふけていたので、降りる停留所を逃した」と訳します。① lost は過去分詞形容詞として正解です。② losing は現在分詞で、「失っている」という能動的な意味になります。③ lose は動詞原形で、was の後には置けません。④ to lose は不定詞で、状態を表す補語にはなりません。so ~ that ... は「とても～なので…」という結果構文です。in thought は「思考の中に」という意味で、lost と強く結びつきません。したがって lost が正解です。

(187) 正解①:その若い科学者は研究に完全に没頭していました。

[解説]be immersed in A は「Aに没頭している・Aに深く入り込んでいる」という表現です。immerse A in B は「AをBに浸す・没頭させる」という他動詞表現で、受動態の形になって A be immersed in B となります。この文では The young scientist was completely immersed in her research. となり、「その若い科学者は研究に完全に没頭していた」と訳します。① immersed は過去分詞形容詞で、主語の状態を表す正しい形です。② immersing は現在分詞で、「没頭させている」という能動的な意味になります。③ immerse は動詞原形で、was の後には置けません。④ to immerse は不定詞で、状態を表す補語としては不適切です。completely があることから、研究の中にすっかり入り込んだ状態を表す immersed が自然です。be absorbed in、be engaged in、be immersed in は「～に没頭・従事する」型として整理できます。したがって immersed が正解です。

解答解説(188~208)

(188) 正解①:この映画は19世紀の有名な小説に基づいています。

[解説]be based on A は「Aに基づいている」という重要表現です。base A on B は「AをBに基づかせる」という他動詞表現で、受動態になると A is based on B となります。この文では This movie is based on a famous novel from the nineteenth century. とな

り、「この映画は19世紀の有名な小説に基づいている」と訳します。② basing は現在分詞で、is basing on なら能動的な形になりますが、映画が何かを基づかせるわけではありません。③ base は動詞原形で、is の後にそのまま置けません。④ to base は不定詞で、述語の形として不適切です。on は「土台・根拠」を表す前置詞で、based と強く結びつきます。したがって based が正解です。

(189) 正解①: 私たちの議論は主に事故の原因に焦点を当てていました。

[解説] be focused on A は「Aに焦点を当てている」という表現です。focus A on B は「AをBに集中させる」という他動詞表現で、受動態では A is focused on B となります。この文では Our discussion was mainly focused on the causes of the accident. となり、「私たちの議論は主に事故の原因に焦点を当てていた」と訳します。② focusing は現在分詞で、was focusing on なら能動態になります。discussion が主語の場合、能動態で使うこともありますが、この問題では was mainly の後に過去分詞を入れる受動表現を問うています。③ focus は動詞原形で was の後に置けません。④ to focus は不定詞で、補語として不自然です。on は焦点が置かれる対象を示します。したがって focused が正解です。

(190) 正解③: この詩人はしばしば同時代で最も偉大な作家の一人とみなされています。

[解説] regard A as B は「AをBとみなす」という重要表現です。受動態では A is regarded as B となります。この文では This poet is often regarded as one of the greatest writers of his age. となり、「この詩人はその時代で最も偉大な作家の一人とみなされている」と訳します。① to は方向や到達点を表しますが、regard の補語を導く前置詞ではありません。② for は理由や目的を表し、「～としてみなす」の意味にはなりません。④ with は付帯や道具を表しますが、評価・資格を示せません。as は「～として」という資格・立場を表す前置詞です。regard A as B, describe A as B, think of A as B はまとめて覚えると効果的です。したがって as が正解です。

(191) 正解②: その本は多くの批評家によって傑作と評されました。

[解説] describe A as B は「AをBと表現する・評する」という意味です。受動態では A is described as B となります。この文では The book was described as a masterpiece by many critics. となり、「その本は多くの批評家によって傑作と評された」と訳します。① to は方向・到達点を表しますが、「傑作として」と評価する意味にはなりません。③ for は理由を表す前置詞で、「傑作として描写する」という構造には合いません。④ with は道具や付帯を表すため不適切です。as a masterpiece は「傑作として」という補語的な働きをしています。by many critics は動作主を表します。describe, regard, accept などは as を伴って評価・位置づけを表すことが多いです。したがって as が正解です。

(192) 正解③: 彼女はクラスのみんなからリーダーと見なされています。

[解説] think of A as B は「AをBと考える・見なす」という表現です。この文では She is thought of as a leader by everyone in the class. となります。受動態では A is thought of as B の形になり、of と as の両方が必要です。① to は方向を表しますが、think of A as B の as の代わりにはなりません。② for は理由を表し、「リーダーとして見な

す」という意味を作れません。④ with は付帯や道具を表すため不適切です。as は「～として」という資格・役割を表します。everyone in the class が彼女をどう見なしているかを述べる文なので、as a leader が最も自然です。したがって as が正解です。

(193) 正解②: その新しい理論は、その問題の有用な説明として受け入れられました。

[解説] accept A as B は「A を B として受け入れる」という意味です。受動態では A is accepted as B となります。この文では The new theory was accepted as a useful explanation of the problem. となり、「その新しい理論はその問題の有用な説明として受け入れられた」と訳します。① to は方向や到達点を表しますが、資格・役割を表す前置詞ではありません。③ for は理由を表すため、「説明として受け入れる」という意味にはなりません。④ with は付帯や道具を表します。as は「～として」という意味で、theory がどのようなものとして受け入れられたかを示します。regarded as、described as、accepted as は一括して覚えましょう。したがって as が正解です。

(194) 正解②: 彼はその試合にとっても興奮していました。

[解説] excite A は「A を興奮させる」という他動詞です。人を主語にして「興奮している」と表す場合は、受動態の形をした excited を使います。この文では He was very excited at the game. となります。① excite は動詞原形で、was の後にそのまま置けません。③ exciting は「人を興奮させるような」という能動的な意味で、主語が game など物事の場合に使います。たとえば The game was exciting. です。④ excitement は名詞で、「興奮」という意味ですが、was very の後の補語としてこの形では不自然です。感情を表す過去分詞は、人が受けた感情状態を表します。したがって excited が正解です。

(195) 正解③: 私たちは彼の成功の知らせに驚きました。

[解説] be surprised at A は「A に驚く」という表現です。surprise A は「A を驚かせる」という他動詞なので、人を主語にして「驚いている」と言う場合は受動態の形をした be surprised を用います。この文では We were surprised at the news of his success. となります。① with は感情表現で使われることもありますが、surprised の原因には通常 at を使います。② in は「～の中に」「～において」を表し、驚きの原因を示せません。④ for は理由を表しますが、surprised for the news とは言いません。at は「ある一点に反応する」感覚があり、驚き・怒り・喜びなどの感情の原因を表します。したがって at が正解です。

(196) 正解①: 私は実験の結果に大いに驚きました。

[解説] astonish A は「A を非常に驚かせる」という他動詞です。人を主語にして「驚いた」と言う場合は、受動態の形をした astonished を使います。この文では I was greatly astonished at the result of the experiment. となります。① astonished は過去分詞形容詞で、主語 I の感情状態を表します。② astonishing は「驚くべき」という意味で、結果や出来事などが主語の場合に使います。③ astonish は動詞原形で、was greatly の後に置けません。④ to astonish は不定詞で、感情状態を表す補語にはなりません。greatly は「大いに」という副詞で、astonished を強めています。感情動詞は「物事が人を驚かせる」と考えるため、人が主語なら過去分詞になります。したがって astonished が正解です。

(197) 正解①:観客はその歌手の突然の発表に衝撃を受けました。

[解説]shock A は「Aに衝撃を与える」という他動詞です。audience は「衝撃を与える側」ではなく「衝撃を受ける側」なので、受動態の形をした shocked が必要です。この文では The audience was shocked at the singer's sudden announcement. となります。① shocked は過去分詞形容詞で、観客の感情状態を表します。② shocking は「衝撃的な」という意味で、announcement など物事を主語にすると使います。③ shock は動詞原形または名詞で、was の後に置けません。④ to shock は不定詞で、補語として不適切です。at は感情のきっかけ・原因を表します。excited / surprised / astonished / shocked は、人を主語にする場合は過去分詞形を使うと整理しましょう。したがって shocked が正解です。

(198) 正解④:事故の後、すべての列車は約1時間遅れました。

[解説]delay A は「Aを遅らせる」という他動詞です。trains は「遅らせる側」ではなく「遅らせられる側」なので、受動態 were delayed が必要です。この文では After the accident, all of the trains were delayed for about an hour. となり、「事故の後、すべての列車が約1時間遅れた」と訳します。① absorbed は「吸収された・夢中になった」という意味で、列車の遅延には合いません。② advanced は「進められた・進歩した」という意味で、遅れたという意味と逆方向です。③ reflected は「反射された・反映された」という意味で文脈に合いません。④ delayed は「遅らされた」という過去分詞で、列車の運行遅延を表すのに自然です。日本語では能動的に「列車が遅れた」と訳しますが、英語では be delayed がよく使われます。したがって delayed が正解です。

(199) 正解②:多くの英単語はラテン語やギリシャ語の語根に由来しています。

[解説]be derived from A は「Aに由来する」という重要表現です。derive A from B は「AをBから引き出す」という他動詞表現で、受動態では A is derived from B となります。この文では Many English words are derived from Latin and Greek roots. となり、「多くの英単語はラテン語やギリシャ語の語根に由来している」と訳します。① deriving は現在分詞で、are deriving from なら能動的に「由来している」とも見えますが、標準的には be derived from を用います。③ derive は動詞原形で are の後に置けません。④ to derive は不定詞です。from は起源・由来を表す前置詞で、derived と強く結びつきます。語源説明では derive from が非常に頻出です。したがって derived が正解です。

(200) 正解②:選手たちは激しい雨にもかかわらず、その試合に勝とうと決意していました。

[解説]be determined to V は「Vしよう」と決心している」という重要表現です。determine A to V は「AにVすることを決意させる」という他動詞的な考え方から、受動態の形で be determined to V となります。この文では The players were determined to win the game despite the heavy rain. となります。① determined だけでは be 動詞がなく、文の述語として不完全です。③ were decided は「決定された」という意味で、主語が人の場合「決意していた」という意味にはなりません。④ have been decided も「決定されている」という意味で、players の意志を表せません。decide to V は能動態で「Vすることを決める」、be

determined to V は「強く決意している」と覚えましょう。したがって were determined が正解です。

(201) 正解①:その難しい問題をすぐに解決しようとする試みはなされませんでした。

[解説]make an attempt to V は「Vしようとする」という表現です。この文では No attempts were made to solve the difficult problem quickly. となり、「その難問をすぐに解決しようとする試みはなされなかった」と訳します。attempt は「試み」という名詞で、make attempts が基本表現です。① made が正解です。② taken は take measures 「措置を取る」などでは使いますが、attempt とは通常結びつきません。③ left は「残された」という意味で、試みを行う意味になりません。④ given は「与えられた」で、attempt とは語法的に合いません。受動態に隠れたイディオムでは、名詞と動詞の結びつきを見抜くことが重要です。No attempts were made は頻出表現です。したがって made が正解です。

(202) 正解①:練習中、限られた時間が有効に使われました。

[解説]make good use of A は「Aを有効に利用する」という重要表現です。この文では Good use was made of the limited time during practice. となり、直訳すれば「限られた時間について良い利用がなされた」、自然には「限られた時間が有効に使われた」と訳します。① made が正解です。② set は set use of という表現を作りません。③ taken は take advantage of A「Aを利用する」では使いますが、good use とは結びつきません。④ brought も bring use とは言いません。make use of A は三語で一つの表現ですが、use を主語にした受動態 Good use was made of A の形も頻出です。of を残すことと、make の過去分詞 made を使うことがポイントです。したがって made が正解です。

(203) 正解①:その新しい制度は、いくつかの慎重なテストの後、使用されるようになりました。

[解説]put A into use は「Aを使用する・Aを実用化する」という表現です。受動態では A is put into use となり、「Aが使用されるようになる」と訳します。この文では The new system was put into use after several careful tests. となります。① put が正解です。put は put-put-put と変化するため、過去分詞も put です。② set は set into use とは通常言いません。③ brought は bring A into use という表現もありますが、この選択肢では was brought into use なら可能です。ただし空所の後が into use で、最も基本的な熟語は put into use です。④ given は give into use とは言いません。system が実際に使用段階に入ったことを表すため、put into use が適切です。したがって put が正解です。

(204) 正解①:その会社は状況の利点を利用しました。

[解説]take advantage of A は「Aを利用する」という重要表現です。この文では The advantage of the situation was taken by the company. となっていますが、もとの自然な表現は The company took advantage of the situation. です。advantage を主語にした受動態では、Advantage was taken of the situation. の形が基本ですが、この問題では The advantage of the situation が主語として立てられています。① taken が正解です。② made は make use of なら使いますが、advantage とは通常 take が

結びつきます。③ set、④ left は advantage と結びついて「利用する」という意味を作れません。take advantage of と make use of はどちらも「利用する」ですが、名詞によって使う動詞が異なります。advantage には take を用いると覚えましょう。したがって taken が正解です。

(205) 正解①:彼女は学生や同僚から非常に尊敬されています。

[解説]hold A in esteem は「A を尊敬する・重んじる」という表現です。受動態では A is held in esteem となり、「A は尊敬されている」と訳します。この文では She is highly held in esteem by her students and colleagues. となります。① held は hold の過去分詞で正解です。② given は「与えられる」で、esteem と自然に結びつきません。③ taken は take esteem という表現を作りません。④ set も set in esteem とは言いません。esteem は「尊敬・高い評価」という名詞で、hold ~ in esteem の形で使われます。highly は「非常に高く」という副詞で、尊敬の程度を強めています。be respected とほぼ同じ意味ですが、held in esteem の方がやや硬い表現です。したがって held が正解です。

(206) 正解①:この重要な点は、その文章を読むときに心に留めておくべきです。

[解説]keep A in mind は「A を心に留める・覚えておく」という重要表現です。この文では This important point should be kept in mind when reading the passage. となり、「この重要な点は本文を読むとき心に留めておくべきだ」と訳します。① kept は keep の過去分詞で正解です。助動詞 should を含む受動態なので should be kept の形になります。② left は「残された」という意味で、in mind と結びついて「心に留める」にはなりません。③ held は hold in mind も理論上は意味が通じる場合がありますが、定型表現としては keep in mind が標準です。④ given は「与えられた」で文意に合いません。when reading the passage は「その文章を読むとき」という分詞構文的表現です。したがって kept が正解です。

(207) 正解①:労働条件を改善したいという強い願望が表明されました。

[解説]express a desire to V は「V したいという願望を表す」という表現です。この文では A strong desire was expressed to improve the working conditions. となり、「労働条件を改善したいという強い願望が表明された」と訳します。① expressed が正解です。② made は make a desire とは通常言わず、desire とは結びつきません。③ given は「与えられた」で、願望が表明されたという意味にはなりません。④ taken は「取られた」で、desire とは語法的に合いません。desire は「願望」という名詞で、動詞 express と強く結びつきます。to improve the working conditions は desire の内容を説明しています。受動態に隠れたイディオムでは、名詞と自然に結びつく動詞を見抜くことが重要です。したがって expressed が正解です。

(208) 正解①:その古い建物を火災から守るため、直ちに措置が取られました。

[解説]take measures to V は「V するための措置を取る」という重要表現です。この文では Immediate measures were taken to protect the old building from fire. となり、「その古い建物を火災から守るため、直ちに措置が取られた」と訳します。① taken が正解で

受動態

す。② given は「与えられた」で、measures と結びついて「措置を取る」という意味にはなりません。③ set は「設定された」という意味で、measures とは通常 take を使います。④ left は「残された」で文意に合いません。measure は「措置・手段」という意味では、take measures の形で用いるのが基本です。to protect the old building from fire は目的を表しています。protect A from B「A を B から守る」も重要表現です。したがって taken が正解です。